C76JP1111

THE SIGMA DP2
A FULL SPEC COMPACT
DIGITAL CAMERA WITH ALL
THE POWER OF DSLR

使用説明書

本書は **SIGMA DP2X** カメラ本体の使用説明書です。
ソフトウエア“**SIGMA Photo Pro**”のパソコンへのインストール方法、ソフトウエアの使用方法、およびカメラとパソコンの接続方法は、同梱の **SIGMA Photo Pro Disc** 内の **SIGMA Photo Pro** 使用説明書（PDFファイル）をご覧ください。

このたびはシグマ製品をお買い上げ頂きありがとうございます

カメラの機能を十分に理解していただき､正しくより良い撮影ができますように、ご使用の前にこの説明書をよくお読みになり、いつまでもご愛用頂きたくお願い申し上げます。

- 使用説明書は、必要なときにいつでも御覧いただける場所に保管して、使用の際に不明な点が生じた場合にご活用ください。
- この製品はご購入より 1 年間の品質保証がなされています。保証の内容、およびアフターサービスについては、別紙の“保証規定”を御覧ください。

著作権について

あなたが本カメラで記録した画像は、個人で楽しむなどのほかは、著作権法上、権利者に無断で使用することはできません。尚、実演や興行、展示会などのなかには、個人で楽しむなどの目的であっても、撮影を制限している場合がありますのでご注意ください。

■ FOVEON は､Foveon Inc.の登録商標です｡X3 および X3 ロゴは､Foveon Inc.の商標です。

■ SD ロゴは、登録商標です。

■ IBM PC / AT シリーズは、米国 International Business Machines 社の商標、または登録商標です。

■ Microsoft および Windows は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。

■ Macintosh、および Mac OS は、米国およびその他の国で登録された、米国 Apple Inc の商標です。

■ Adobe、Photoshop は、Adobe Systems Incorporated（アドビシステムズ社）の商標です。

■ その他、本冊子中の社名や商品名は、各社の商標、もしくは登録商標です。

■ 本製品は、メニュー表示等に株式会社リコーがデザイン制作したリコー True Type フォントを使用しています。

妨害電波自主規制について

本カメラは、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準にもとづくクラス B 情報技術装置です。本カメラは、家庭環境で使用することを目的としていますが、本カメラをラジオやテレビジョン受信機に近接して使用すると、受信障害を引き起こすことがあります。使用説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

標準付属品の確認

このカメラには、標準付属品として以下のものが入っています。ご使用になる前にすべて揃っているかご確認ください。万一、足りないものがあるときは、お買い上げの販売店にご連絡ください。

① DP2X カメラ本体
② レンズキャップ（カメラ本体に付属）
③ ホットシューカバー（カメラ本体に付属）
④ ソフトケース
⑤ ストラップ
⑥ リチウムイオン充電池 BP-31
⑦ リチウムイオン充電器 BC-31
⑧ 充電器用 AC ケーブル
⑨ USB ケーブル
⑩ AV ケーブル
⑪ SIGMA Photo Pro Disc
⑫ 使用説明書（本書）
⑬ 保証書
⑭ 保証規定書

- 画像を記録するメモリーカードは付属していません。別途お買い求めください。

目　次

安全上のご注意

人的損害や物的損害を未然に防止するため、ご使用の前にこの項目の内容を十分ご理解いただくようお願いします。

⚠警告　この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

⚠注意　この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が障害を負う可能性が想定される内容および物的損害の発生が想定される内容を示しています。

各文章の ⚠ 記号は注意、もしくは警告を促す内容を告げています。
各文章の ⃠ 記号は行為を禁止する内容を告げています。

⚠警告（電池、充電器、電源について）

⚠ 電池はお子様の手の届かない場所に保管してください。万一飲み込んだ場合、液漏れにより健康を害するおそれがあります。ただちに医師にご相談ください。

⃠ 使用説明書に指定されていない電池は使用しないでください。電池の破裂、液漏れにより、カメラの破損、けが、火災の原因となります。

⃠ 電池は指定された機器以外には使用はしないでください。電池の破裂、液漏れにより、カメラの破損、けが、火災の原因となります。

⃠ 強い衝撃や振動を与えたり、投げつけないでください。電池の破裂、液漏れにより、けがや火災の原因となります。

⃠ 電池の分解、火中、水中への投下、加熱、ショートは絶対しないでください。電池の破裂、液漏れにより、けがや火災の原因となります。

⃠ 指定されていない電池を充電しないでください。電池の破裂、液漏れにより、けがや火災の原因となります。

⚠ 万一、カメラや電池から煙が出る、異常に熱くなる、焦げ臭いなどの現象が起きた場合、ヤケドに注意し速やかに電池を抜いて、ご購入店、もしくは弊社営業所にご連絡ください。

⚠ 電池を処分される場合は、テープなどで接点部を絶縁してください。また、お住まいの自治体の規則に従ってください。

⚠ 長期間使用しない場合、電池室から電池を取り出してください。長期間放置しますと液漏れによるカメラの破損の原因となります。

安全上のご注意

AC 電源を使用する際は、必ず専用の AC アダプターを使用してください。感電、発火の原因となります。

専用の AC アダプターは、他の機器に使用しないでください。発熱、発火、感電、けがの原因となります。

AC アダプターを使用中に煙や異臭、異音が発生した場合、すぐにコンセントを抜いてください。火災や感電の原因となります。

水や異物が AC アダプター内に侵入した場合、すぐにコンセントを抜いてください。火災や感電の原因となります

改造や分解はしないでください。火災や感電の原因になります。

コードの上に重たい物をのせたり、コードを引いたり曲げたり、また熱したりしないでください。コードの損傷、火災や感電の原因になります。

指定(AC100V-240V)された以外の電圧で使用しないでください。火災や感電の原因になります。

電源コードは、指定されているものを使用してください。

警告（カメラについて）

プロパンガス、ガソリンなどの引火性のガスが発生する場所では、火災、爆発のおそれがありますので、絶対に使用しないでください。

カメラはお子様の手の届かない場所に保管してください。誤ってストラップを首に巻き付けると、窒息することがあります。

カメラは自分で分解、改造しないでください。感電、ヤケドのおそれがあります。

落下等で破損した場合、内部に手を触れないでください。感電、ヤケドのおそれがあります。電池を抜いて、ご購入店、もしくは弊社営業所にご連絡ください。

水中に落としたり内部に水が入った場合、電池を抜いてご購入店、もしくは弊社営業所にご連絡ください。そのまま放置しますと火災や感電の原因となります。

カメラ本体のコネクター部に、金属片等を差し込まないでください。感電、発熱、発火の原因となります。

フラッシュを人の目に近づけて発光しないでください。視力障害の原因となります。特に乳幼児を撮影する場合は、1m 以上離れてください。

フラッシュの発光部を手で覆ったまま発光しないでください。ヤケドの原因となります。

注意 （充電器、電源について）

充電器や AC アダプターをコンセントから抜く場合、コードを引っ張らないでください。コードを痛め、火災や感電の原因となります。常にプラグを持ってコンセントから引き抜いてください。

充電器やACアダプターを布やクッションなどで覆い被さないでください。発熱し、本体を変形させたりし、火災の原因となります。

使用しない場合は、安全の為コンセントを抜いてください。

充電器やＡＣアダプターを掃除する場合は、安全の為コンセントから抜いて行ってください。

注意（カメラについて）

レンズキャップをはずしたまま放置しないでください。レンズに長時間日光があたった場合、カメラの故障や火災の原因となることがあります。

三脚にカメラを取り付けたまま移動しないでください。転倒したりぶつけたりして、けがの原因となることがあります。

カメラをぬれた手でさわらないでください。感電することがあります。

カメラを熱いものの近くや、日中の車内に放置しないでください。カメラ自体が高温になり、ヤケドの原因となることがあります。

液晶モニタが破損した場合、ガラスの破片にご注意ください。ケガの原因となります。また、破損により液晶モニタ内部の液体が流出し、以下のような状況になった場合、それぞれの対処を行ってください。

■液体が衣服や皮膚に付着したときは、ただちに石鹸で洗い流してください。

■液体が目に入ったときは、ただちにきれいな水で 15 分以上洗浄し、医師の診療を受けてください。

■液体を飲み込んだときは、大量の水を飲んで吐き出し、医師の診療を受けてください。

取り扱い上のご注意

ご使用の前に

結婚式や海外旅行など、大切な撮影をする前には、事前のチェックや試し撮りをして、カメラが正常に作動するか必ず確認してください。撮影に要した諸経費、および撮影により得べかりし利益の損失等については保証致しかねます。
長期間の旅行、野外撮影、寒冷地での撮影、またはたくさんの写真を撮られるようなときなどには、予備の新しい電池を多めに用意することをおすすめします。地域によっては電池の入手が困難な場合があります。

ご使用の環境や注意点について

■カメラは精密機械です。ぶつけたり、落としたりしないでください。
■このカメラは防水構造になっていませんので水中では使用できません。水滴がついた場合は速やかに乾いたきれいな布で拭きとってください。万一、水がかかったり、水中に落とした場合には早めに弊社営業所にご連絡ください。
■ほこりの多い場所や高温多湿の場所（特に日中の車内等）へ長時間放置しないでください。
■寒い場所から温かい室内に持ち込む場合、カメラに水滴が生じます。カメラをバックやビニール袋に入れて周囲の温度になじませてからご使用ください。
■このカメラの使用可能温度は約 0℃～＋40℃、使用可能湿度は約 80%以下（結露しないこと）です。0℃以下になると電池の性能低下が影響します。寒い場所では予備の電池を用意し、ポケットに入れて保温しながら交互に使用することをおすすめします。
■静電気や磁気の影響により、まれにカメラが作動しなくなることがあります。このようなときは、一旦電池を取り出して再度装填し直してください。また、強い電波や磁気の発生する場所では、カメラが正常に作動しない場合があります。

保管について

■長期間ご使用にならないときは、液漏れによるカメラの破損を防ぐため、電池を取り出して保管してください。
■カビや錆の発生を防ぐため、風通しのよい乾燥した場所に保管してください。カメラを乾燥剤といっしょにビニール袋にいれて保管するのも有効な手段です。ただし乾燥剤は有効期限がありますので、ときどき交換してください。ナフタリン等の防虫剤はカメラに悪影響を与えますのでいっしょに保管しないでください。

液晶モニタについて

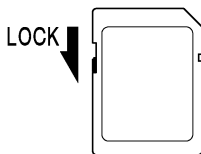
■液晶モニタはその特性上、一部の画素に常時点灯、あるいは常時点灯しない画素が存在することがありますが故障ではありません。また、記録されるデータには影響ありません。予めご了承ください。

■液晶の特性により、低温下で表示の反応が遅くなることがあります。また、高温下で表示が黒くなることがありますが、常温になれば正常に戻ります。

SD メモリーカード、マルチメディアカードについて（別売）

本カメラに使用できるメモリーカードは SD メモリーカード、SDHC メモリーカード、マルチメディアカードです。

- 本書では SD メモリーカード、SDHC メモリーカード、マルチメディアカードを「カード」と記載しています。
- 本カメラには SDHC メモリーカード、もしくは高速タイプの SD メモリーカードのご使用をおすすめします。

- SD メモリーカード、SDHC メモリーカードはカードへの書込みやフォーマットを禁止できる書込み禁止スイッチを備えています。「LOCK」側にしておくと、データの誤消去を防ぐことができます。

■マルチメディアカードはデータの書込み速度が遅いため、連続撮影や動画撮影モードでのご使用はお勧めできません。

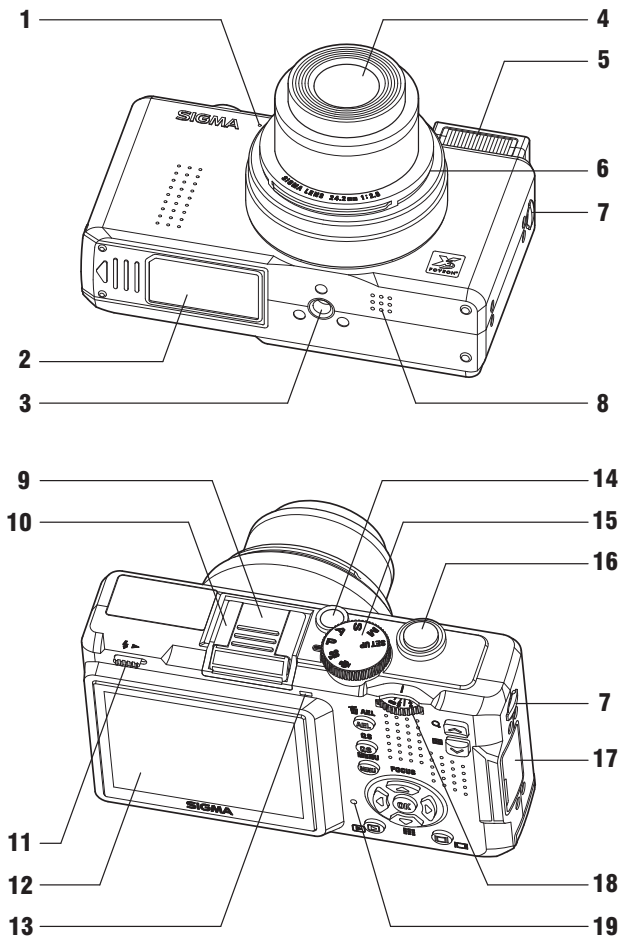
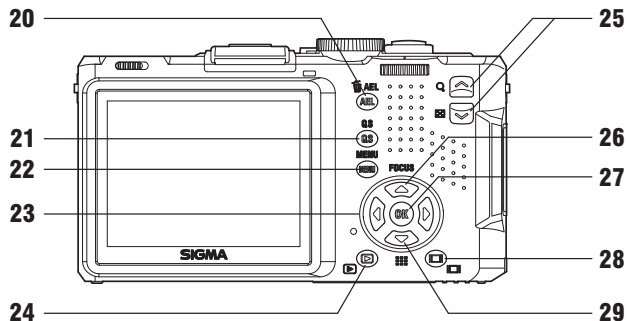
■カードを直射日光の当たる場所や、暖房器具のそばに放置しないでください。

■カードを温度の高い場所、湿度の高い場所、静電気の起こりやすい場所や電磁波が発生している場所に保管しないでください。

■カードの詳細な取扱い方法は、それぞれの使用説明書の内容に従ってください。

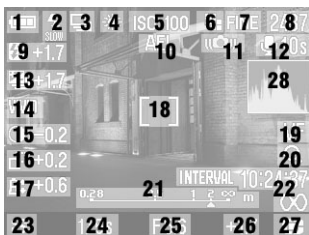
■カメラの「カードの初期化」やパソコンの「削除」の機能では、ファイル管理情報が変更されるだけで、メモリーカード内のデータは完全には消去されません。廃棄／譲渡の際は、メモリーカード本体を物理的に破壊するか、市販のデータ消去専用ソフトなどを使ってメモリーカード内のデータを完全に消去することをおすすめします。 メモリーカード内のデータはお客様の責任において管理してください。

各部の名称

1
2
3
4
5
6
7
8
SIGMA
SIGMA LENS 24.2 mm 1:2.8
FOVEON
9
10
11
12
13
14
15
16
7
17
18
19
P
A
S
M
SET UP
AEL
QS
MENU
FOCUS
OK

1	マイク
2	電池／カードカバー
3	三脚ネジ穴
4	レンズ
5	フラッシュ発光部
6	レンズキャップ取付部
7	ストラップ取付金具
8	スピーカー
9	ホットシューカバー
10	ホットシュー
11	フラッシュポップアップレバー
12	液晶モニタ
13	フォーカスランプ
14	電源スイッチ
15	モードダイヤル
16	シャッターボタン
17	コネクターカバー
18	MF ダイヤル
19	アクセスランプ

20	AEL ／ 🗑 (AE ロック／削除) ボタン
21	QS (クイックセット) ボタン
22	MENU (メニュー)ボタン
23	◀▲▼▶ 十字コントローラー
24	▶ (再生) ボタン
25	︿ボタン ﹀ボタン
26	FOCUS (フォーカスモード) ボタン
27	OK (OK) ボタン
28	|□| (ディスプレイ) ボタン
29	⠿ (フォーカスフレーム) ボタン

液晶モニタの表示

静止画撮影時に表示されるアイコンを説明します。

1	電池残量表示
2	フラッシュモード ※
3	ドライブモード ※
4	ホワイトバランス ※
5	ISO 感度
6	画像サイズ
7	画質
8	撮影可能枚数
9	調光補正値 ※
10	AE ロック ※
11	手ぶれ警告
12	音声付静止画 ※
13	オートブラケット ※
14	カラーモード

15	コントラスト ※
16	シャープネス ※
17	彩度 ※
18	フォーカスフレーム
19	フォーカスモード ※
20	MF 拡大表示中警告 ※
21	MF スケールバー ※
22	インターバル撮影 ※
23	露出モード
24	シャッター速度
25	絞り値
26	露出補正値 / 露出メーター
27	測光モード
28	ヒストグラム ※

※設定時のみ表示されます。

[ボタン割当変更ガイド表示]

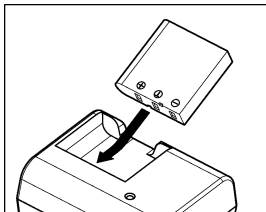
静止画撮影時、OKボタンを押すと、画面下端の露出表示部が、ボタン割当変更ガイドに変わり、◀▲▼▶ボタンと ボタンの機能の割り当てが変更されていることをお知らせします。

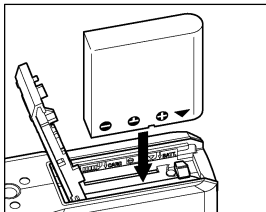
静止画撮影直後、カメラ内で画像処理中に表示されるアイコンです。このアイコンの表示されている間は、次の撮影やボタンによる操作ができません。

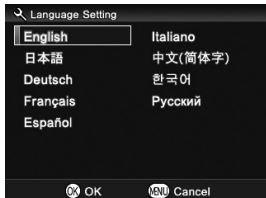
スローシャッター時、露光中であることを示すアイコンです。

操作の流れと参照項目

DP2X にはたくさんの機能がありますが、このページでおおよその流れをつかんで、各項目で操作の詳細をマスターしてください。

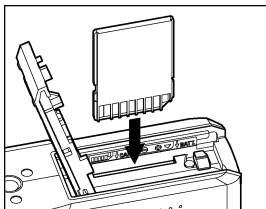
カメラを使う準備をします

電池を充電します（P.19）

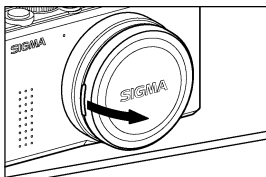
付属の専用リチウムイオン充電池を専用充電器で充電します。

電池を入れます（P.20）

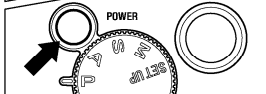
ふたの内側の表示に従って、電池を入れます。

言語を設定します（P.24）

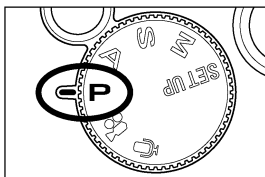
メニュー画面の文字が、ご使用になりたい言語と異なる場合は、言語を変更します。

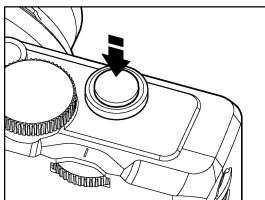
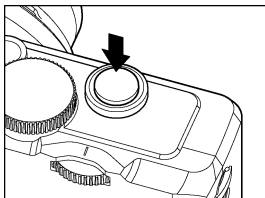
日付と時間を設定します（P.25）

画像データのファイルに撮影日時が正しく記録されるように、日付と時間の設定をします。

カードを入れます（P.37）

撮影します

電源を入れます

レンズキャップを外して電源ボタンを押します。

露出のモードを選びます（P.41）

まずは **P**（プログラムオートモード）にセットしましょう。

ピントを合わせます（P.48）

液晶モニタで構図を決めてシャッターボタンを半押しします。

撮影します

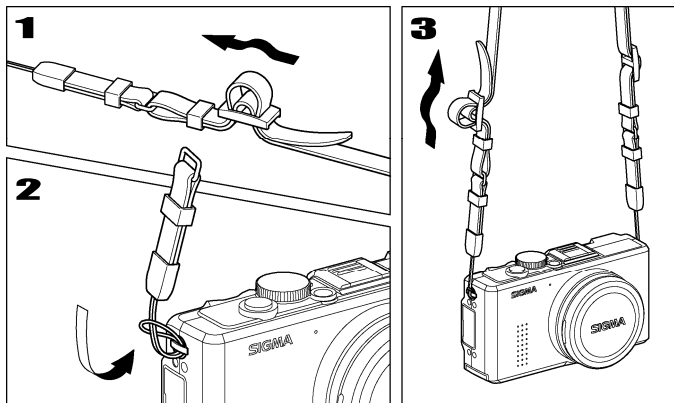
さらにシャッターボタンを押し込んで撮影します。

撮影した画像を確認します（P.75）

画像が 2 秒間表示されます。

カメラを使う準備をする

撮影をはじめる前に、必要な準備やチェックする項目について説明します。

ストラップの取り付け方

1

ストラップの片側の止め具を外してほどきます。

2

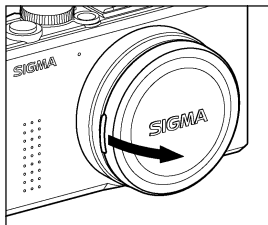
ストラップの細ひも部をカメラの両側のストラップ金具に取り付けます。

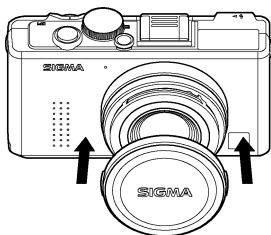
3

ほどいたストラップを元のように組み直して完成です。

レンズキャップ

レンズを保護するためにレンズキャップが取り付けられています。カメラを使用しない場合はレンズキャップを取り付けて保管してください。

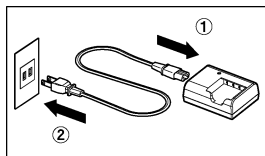
レンズキャップの外し方

レンズキャップ両脇のの凸部に指をかけて取り外します。

レンズキャップの取り付け方

[**SIGMA**]のロゴマークがほぼ水平になるようにしてはめ込みます。

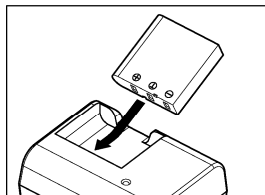
ご注意!!

- レンズキャップを外さないで電源を入れた場合、カメラの保護機能が働き、レンズの繰り出しが中断されます。キャップを外して再度電源を入れ直してください。
- レンズキャップは、レンズが繰り出された状態では取り付けできません。電源を OFF にし、レンズが収納されていることを確認してから取り付けてください。

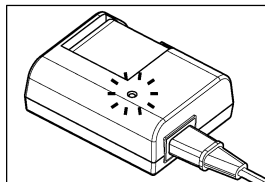
電池を入れる

DP2X は、付属の専用リチウムイオン充電池 BP-31 を使用します。お買い上げの際には、電池は充電されていません。付属の専用充電器 BC-31 で充電を行ってからお使いください。

電池を充電する

1

電源コードを、充電器の電源ソケットとコンセントに差し込みます。

2

図のように、電池をスライドさせて充電器に取り付けます。

- 充電中は充電ランプが赤く点灯します。
- 充電時間は約 120 分です。
- 充電時間は周囲の温度や、充電状態によって異なります。

3

充電ランプが緑色に変わったら充電完了です。

電池を外して、電源コードをコンセントから抜いてください。

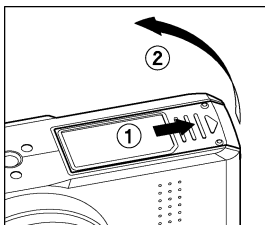
- 電池の充電は、なるべくご使用の直前にされることをおすすめします。日数がたちますと、自然に放電され、使用できる時間が短くなります。
- 充電しても、撮影可能枚数が極端に少なくなった場合は、電池の寿命が考えられます。新しい充電地をお買い求めください。

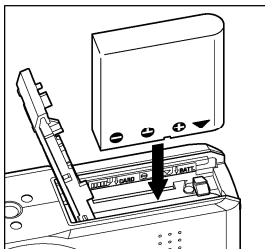
● この製品にはリチウムイオン電池を使用しています。ご使用済の電池は貴重な資源となります。端子にテープを貼りつけて絶縁してからリサイクル協力店にお持ちください。

リサイクル協力店のお問い合わせ先は、有限責任中間法人 JBRC

ホームページアドレス：http://www.jbrc.net/hp/contents/index.html

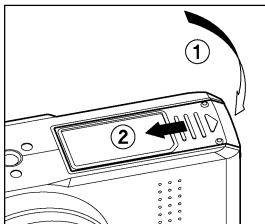
Li-ion

電池の入れ方

1

図のように電池／カードカバーをスライドさせて開きます。

2

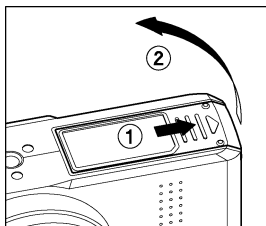
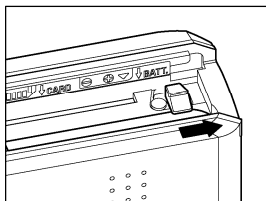
電池／カード室内の表示に従って電池を入れます。

- 電池がロックされるまで押し込んでください。

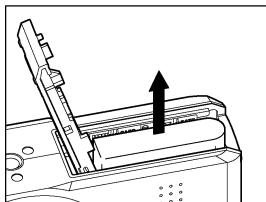
3

電池／カードカバーを閉めます。

- カチッと音がしてふたがロックされるまでスライドさせてください。

電池の取り外し方

1

電源が OFF になっているのを確認し、図のように電池／カードカバーをスライドさせて開きます。

2

電池ロックレバーを図のようにスライドさせて、電池を取り出します。

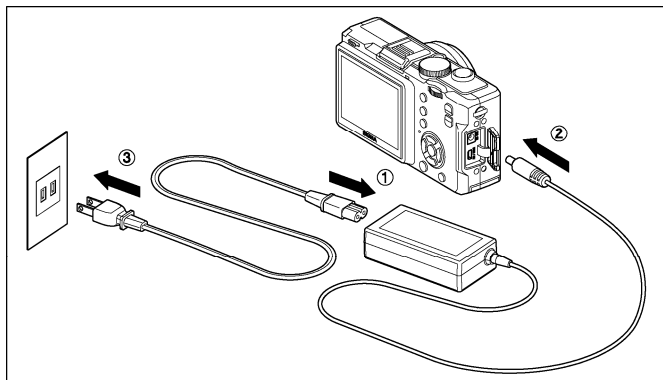
警 告!!

- アクセスランプが点灯している時には、絶対にカメラから電池を取り出さないでください。書き込み中のデータが失われます。また、カードが損傷する場合があります。

電池のチェック

液晶モニタの左上に電池の残量を示すアイコンが表示されます。表示の意味と対応は下図の通りです。カメラの使用前及び使用中は、常に電池アイコンをチェックするよう心がけてください。

	表示の意味と対応
白	電池の残量が十分にあります。
白	電池の残量が残り少なくなっています。新しい電池をご用意ください。
白	電池の残量が殆どなく、まもなくカメラが作動しなくなります。電池を交換してください。
赤	電池の残量がなく、カメラが作動しません。電池を交換してください。

家庭用電源の使い方（別売）

別売りのＡＣアダプター（SAC-3）を使用して、家庭用電源でカメラを作動させることができます。長時間の撮影、画像の再生、パソコンとの接続時等におすすめします。

1

AC ケーブルを AC アダプターに接続します。①

2

カメラの電源が OFF になっていることを確認してから､AC アダプターのプラグをカメラ本体に接続します。②

3

AC ケーブルのプラグをコンセントに差し込みます。③

使い終わったらカメラの電源を OFF にして､プラグをコンセントから抜いてください。

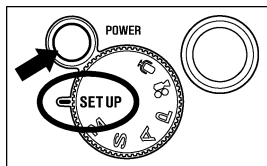
家庭用電源での作動中は、電池の有無、もしくは電池容量にかかわらず、液晶モニタの電池アイコンはフルの表示になります。電池による作動に切り替えると、本来の残量表示に切り替わります。

警 告 !!

- アクセスランプが点灯している時には、絶対に電源の切り替えを行わないでください。書き込み中のデータが失われます。また、カードが損傷する場合があります。

言語の設定

液晶モニタに表示されるメニューやメッセージの言語は、英語が初期設定となっています。セットアップメニューの「言語の設定」で日本語に設定を変更してください。

1

モードダイヤルを **SET UP** にし、カメラの電源を入れます。

2

ボタンを押して「**Language（言語）**」を選択し、OK ボタンを押します。

3

「OK:**Jump to Language Setting menu**」とメッセージが表示されますので、再度 OK ボタンを押します。

4

ボタンを押して「**日本語**」を選択します。言語は下記の9種から選択できます。

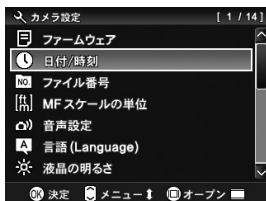
English	英語
日本語	日本語
Deutsch	ドイツ語
中文(简体字)	中国語
Français	フランス語
Español	スペイン語
Italiano	イタリア語
한국어	韓国語
Русский	ロシア語

5

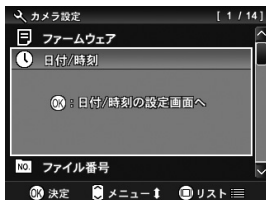
確定する場合は、OK ボタンを、変更しない場合は、MENU ボタンを押します。

日付と時間の設定

初めて使用する場合、あるいは長期間使用していなかった場合は、日付と時間を正しく設定してください。

1

モードダイヤルを **SET UP** にし、カメラの電源を入れます。

2

ボタンを押して「**日付 / 時刻**」を選択し、OK ボタンを押します。

3

「**OK 日付 / 時刻の設定画面へ**」とメッセージが表示されますので、再度 OK ボタンを押します。

4

◀▶ボタンで各項目を選択し、⬍ボタンで修正します。

5

確定する場合は、OK ボタンを、変更しない場合は、MENU ボタンを押します。

メ モ

- 日付表示は、①年月日、②月日年、③日月年の 3 種類から選べます。「**日付設定**」の項目で希望する状態にセットしてください。
- カメラの内蔵時計は、カメラ動作用電池から内蔵の充電池に充電された電気で動いています。長期間カメラに電池が入っていない状態で、充電がされていない場合は、内蔵時計を再設定する必要があります。

カメラのセットアップメニュー

カメラ操作の基本となるセットアップメニューについて説明します。
セットアップメニュー画面から、カメラのこまかい機能や、カメラの基本状態を設定することができます。
セットアップメニューは以下の 3 つのグループに分類されています。

撮影設定

静止画撮影や動画撮影に関する機能を設定するメニューです。撮影モード時に **MENU** ボタンを押すと、「**撮影設定**」メニューが開きます。撮影モードによって、表示される項目が異なります。

再生メニュー

画像や動画などの、再生に関する機能を設定するメニューです。DPOF 設定などプリントに関する設定も再生設定メニューに含まれます。再生モード時に **MENU** ボタンを押すと、「**再生設定**」メニューが開きます。

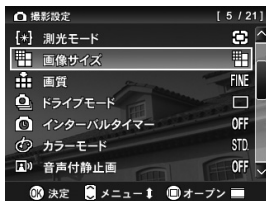
カメラ設定

日付の設定や言語の選択など、カメラの基本状態を設定するメニューです。モードダイヤルを **SET UP** に合わせると「**カメラ設定**」メニューが開きます

ご注意!!

- ボイスレコードモード時は、セットアップメニューが表示されません。

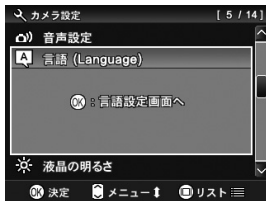
リストメニューとオープンメニュー

DP2X のセットアップメニューは、変更したい項目を素早くさがせる**リストメニュー**と、各項目のオプションが一覧表示される**オープンメニュー**の2通りの表示方法があります。

リストメニュー

メニュー項目がリスト表示されます。

「**撮影設定**」メニューでは、右端に現在設定中のオプションがアイコンで表示されます。ボタン、もしくは ボタンで項目を移動できます。オプションの変更は、希望の項目上で ボタンし、オープンメニューに切り替えます。

オープンメニュー

選択された項目内のオプションが一覧表示されます。文字の輪郭が青になっているものが、現在設定中のオプションです。オプションの変更は ボタンで希望のオプションを選択し、 ボタンを押して決定します。

オプションが表示されず、 ボタンを押して専用画面に飛ぶ項目もあります。その場合は表示されるメッセージに従ってください。

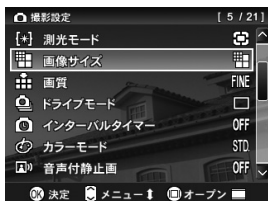
メ モ

- オープンメニュー表示時に ボタンを押すと、オープンメニュー表示のまま、他の項目に移動することができます。
- メニュー表示時、 ボタンを押すたびにリストメニューとオープンメニューが切り替わります。

•大まかには以下のように設定します。項目により、設定方法が若干異なる場合がありますので、各機能の該当ページをご参照ください。

例えば、「**撮影設定**」メニュー内の「**画像サイズ**」の設定を変更したい場合･･･

1

静止画の撮影モード中に、MENU ボタンを押して、「**撮影設定**」メニューを開きます。

2

ボタンを押して「**画像サイズ**」を選択し、OK ボタンを押します。

3

オープンメニュー画面上で、ボタンを押して、希望の画像サイズを選択し、OK ボタンを押して確定します。（確定すると、文字の輪郭が青に変わります。）

4

MENU ボタンを押すか、シャッターボタンを半押しすると、メニュー画面が消え、撮影状態に戻ります。

ご注意!!

- 「**カメラ設定**」メニューの項目を変更した後は、モードダイヤルを **SET UP** 以外のポジションに戻してください。**SET UP** にセットされたままでは、撮影や再生ができません。

メニューリスト

＊は初期設定の項目を示しています。項目によっては、販売国で設定が異なることがあります。
設定内容の詳細は、各項目の該当ページをご覧ください。

撮影設定

項　目	モード	オプション	設定内容	頁
ホワイトバランス	P,A S,M 動画	**オート＊** **晴れ** **日陰** **曇り** **白熱電球** **蛍光灯** **フラッシュ** **カスタム**	撮影時の光源の種類に応じて、ホワイトバランスのモードを選択します。	**53-55**
ISO 感度	P,A S,M	**ISO オート＊** **ISO50** **ISO100** **ISO200** **ISO400** **ISO800** **ISO1600**(RAW) **ISO3200**(RAW)	大きい数値ほど、感度が高くなります。（ただし画像にノイズが増えることがあります。）	**56**
フラッシュモード	P,A S,M	**通常発光＊** **赤目発光** **スローシンクロ** **赤目発光＋スローシンクロ**	フラッシュ撮影時の発光モードを選択します。	**47**
測光モード	P,A S,M	**評価測光＊** **中央重点測光** **スポット測光**	被写体の状況に合わせ、3つの測光方式を選べます。	**60**
画像サイズ	P,A S,M	**HI＊** **WIDE 16:9** **MED** **LOW**	記録する画像サイズ（記録画素数）の設定をします。	**57**
画質	P,A S,M	**FINE＊** **NORMAL** **BASIC** **RAW**	記録する画質を設定します。（RAW はパソコンにインストールした専用ソフトによる現像が必要です。）	**57,58**
ドライブモード	P,A S,M	**1 コマ撮影＊** **連続撮影** **セルフタイマー2 秒** **セルフタイマー10 秒**	セルフタイマーなどのカメラの動作モードを設定します。	**51,52**

撮影設定（つづき）

項　目	モード	オプション	設定内容	頁
インターバルタイマー	P,A S,M	**切**＊ **入** [インターバル] [回数]	インターバル撮影の ON/ OFF と、撮影条件を設定します。	71,72
カラーモード	P,A S,M	**スタンダード**＊ **ビビッド** **ニュートラル** **ポートレート** **風景** **白黒** **セピア**	各撮影シーンに最適な色調、コントラストなどを調整したカラーモードを選択できます。	67
音声付静止画	P,A S,M	**切**＊ **10 秒** **30 秒**	撮影直後の音声記録機能の有効､無効を設定します。	68
カラースペース	P,A S,M	**sRGB**＊ **Adobe RGB**	色空間の規格である「sRGB」か､「Adobe RGB」を選択します。	58
ピクチャーセッティング	P,A S,M	**コントラスト** **彩度** **シャープネス** [調整量±5 段]	画像のコントラスト、彩度、シャープネスを調整できます。	59
撮影画像確認	P,A S,M	**しない** **2 秒**＊ **5 秒** **10 秒**	撮影後、液晶モニタに自動的に表示される確認画像の表示時間を設定します。	75,76
グリッド表示	P,A S,M	**切**＊ **── 4 分割** **- - - 4 分割** **── 9 分割** **- - - 9 分割** **── 16 分割** **- - - 16 分割**	構図の決定に便利なグリッド表示の ON/ OFF と、グリッド線の詳細を設定します。	36
縦位置自動記録	P,A S,M	**切** **入**＊	縦位置撮影情報の記録の有無を設定します。	70
AEL ボタンの設定	P,A S,M 動画	**AEL**＊ **中央 AFL** **中央 AFL+AEL**	カメラ背面の AEL ボタンに割当てる機能の選択を行います。	61,62
半押しレリーズ AEL	P,A S,M 動画	**切** **入**＊	シャッターボタンを半押しした際に､露出を固定するか､しないかの設定をします。	62

撮影設定（つづき）

項　目	モード	オプション	設定内容	頁
◀▶機能入換	P,A S,M	—	各撮影モードでの露出設定、露出補正ボタンの割当てを設定します。	74
オートブラケットの順序	P,A S,M	0 → − → +* − → 0 → + + → 0 → −	オートブラケット撮影時の順序を設定します。	65,66
マイセッティングの呼出	P,A S,M	A B C	マイセッティングの保存で記憶された撮影設定状態を呼び出します。	73
マイセッティングの保存	P,A S,M	A B C	好みの撮影設定状態を３パターンまで保存できます。	73

再生設定

項　目	オプション	設定内容	頁
スライドショー	**全画像** **ロックのみ** **マークのみ** **スライドショーの設定** 表示間隔 繰り返し	スライドショーの再生条件を設定します。	99,100
回転	**回転** **回転**	記録された画像の回転を実行します。	95
ロック	**ロック** **ロック解除** **ロック** **ロック解除** **全ロック** **全ロック解除**	ファイルの誤消去を防ぐ「ロック機能」の設定、解除を行います。	89-91
マーク	**マーク** **マーク解除** **全画像マーク** **全画像マーク解除**	ファイルの選別に便利なマーク機能の設定、解除を行います。	92-94

再生設定（つづき）

項　目	オプション	設定内容	頁
音声メモ	**しない**＊ **10 秒** **30 秒**	記録された画像に音声を付加できる「音声メモ機能」の有効、無効を設定します。	97,98
露出警告	**切**＊ **入**	露出警告表示（画像の白とびした部分の赤色表示）の有無を設定します。	96
OK ボタンの割り当て	**なし**＊ **ロック/ロック解除** **マーク/マーク解除** **露出警告** **回転** **回転**	OK ボタンに割り当てる機能の設定をします。	96
DPOF	**選択設定** **全ての画像** **選択解除**	DPOF 規格対応のプリンターでプリントする際の枚数設定を行います。	109

カメラ設定

項　目	オプション	設定内容	頁
日付 / 時刻	[日付/時間の設定] [12/24 時間表示の設定] [年/月/日の表示順の設定]	ファイルに記録される日付や時間に関する設定を行います。	25
ファイル番号	**通し番号**＊ **オートリセット**	新しいカードをカメラに入れたとき、もしくはカードを初期化した後などの、ファイル番号の付き方の設定です。	113
MF スケールの単位	**m（メートル）**＊ **ft（フィート）**	マニュアルフォーカス時に表示される MF スケールバーの単位を設定します。	50
音声設定	**シャッター音** **操作音** **音量**	操作音、シャッター音の有無、音声の再生音量などの設定をします。（音量の設定はボタンで行います）	—
言語(Language)	**英語**＊　**日本語** **ドイツ語**　**フランス語** **スペイン語**　**イタリア語** **中国語**（簡体字） **韓国語**　**ロシア語**	メニューやメッセージで表示される言語を選択します。	24

カメラ設定（つづき）

項　目	オプション	設定内容	頁
液晶の明るさ	[調整量 ±3 段]	液晶モニタのバックライトの明るさを設定します。（画像データには影響しません。）	**—**
液晶のコントラスト	[調整量 ±3 段]	液晶モニタのコントラストを設定します。（画像データには影響しません。）	**—**
LCD スリープ	**切　30 秒**(eco) **1 分＊　2 分** **5 分**	操作をしない時に、自動的に液晶モニタが消灯するまでの時間を設定します。（**切**）は自動的に消灯しなくなる設定です。	**115**
オートパワーオフ	**しない　10 秒** **30 秒　1 分** **2 分＊　5 分**	操作をしない時に、自動的に電源が切れるまでの時間を設定します。（**しない**）は自動的に電源が切れなくなる設定です。	**115**
パワーセーブモード	**切＊** **入**	LCD スリープに連動し、より電池の消耗を抑えるパワーセーブモードの有無を設定します。	**116**
ビデオ出力	**NTSC＊** **PAL**	カメラを TV やビデオにつないだときのビデオ出力方式を設定します。ご使用の地域に合った方式に切換えます。	**85**
USB モード	**ストレージ＊** **PictBridge**	パソコンにつなぐ際の「ストレージ」か、プリンターにつなぐ際の「PictBridge」を選択します。	**106,118**
カードの初期化	—	カードを初期化します。（カード内のすべてのファイルが消去されます。）	**39**
リセット	**撮影設定のリセット** **カメラ設定のリセット** **(工場出荷状態に戻す)**	各設定を初期設定に戻します。（言語は英語に設定されます。）	**40**
ファームウェア	—	現在のファームウェアバージョンの確認と、カードから、最新ファームウェアのアップデートができます。	**—**

クイックセットメニュー

撮影設定メニューの中で、撮影時に頻繁に使う以下の項目は、QSボタンを押すことにより、簡単に設定することができます。

Qs1 (クイックセットメニュー1)	**Qs2** (クイックセットメニュー2)
▲ **ISO 感度**	▲ **画像サイズ**
▼ **ホワイトバランス**	▼ **色モード**
◀ **フラッシュモード**	◀ **画質**
▶ **測光モード**	▶ **ドライブモード**

静止画撮影モード中に QSボタンを押すと、クイックセットメニューが表示されます。（QSボタンを押すたびにメニュー1 とメニュー2 が切り替わります。）

変更したい項目のボタンを押して、設定を変更します。

例えば、ISO 感度を 400 にしたい場合、QSボタンを押してメニュー1 を表示させ、▲ボタンを数回押して **400** を表示させます。

OK ボタンを押すか、シャッターボタンを半押しすると設定が確定され、撮影状態に戻ります。

ホワイトバランスの項目で、（カスタム）を選択した場合、撮影設定メニューの「**カスタム**」で最後に取り込まれた設定値で撮影されます。
クイックセットメニューの（カスタム）では新しい基準値を取り込むことはできません。「**撮影設定**」（**P.26**）→「**ホワイトバランス**」→「**カスタム**」より取り込みをしてください。

ご注意!!

- 画質を **RAW** に設定すると、画像サイズが自動的に（**Hi**）に切り替わります。他の画像サイズは選択できません。

液晶モニタの表示を切り替える

|□| ボタンを押すと、アイコンの表示/非表示を切り替えるなど、表示の状態を変更することができます。

|□| ボタンを押すたびに、液晶モニタの表示状態が以下のように切り替わります。

撮影時

静止画モード（**P**, **A**, **S**）
アイコン表示 → アイコン表示(ヒストグラムあり) →アイコン非表示 → 液晶モニタ OFF → ビューファインダーモード → • • •
静止画モード（**M**）
アイコン表示 → アイコン非表示 → 液晶モニタ OFF → ビューファインダーモード → • • •
動画モード 🎥
アイコン表示 → アイコン非表示 → • • •
ボイスレコードモード 🎙
アイコン表示 → 液晶モニタ OFF → • • •

• ビューファインダーモードは、撮影情報のみを表示します。別売りのビューファインダーを使用の際に便利な表示モードです。

再生時

静止画
アイコン表示 → アイコン非表示 → 画像情報表示 (**P.82**) → ・・・
動画
アイコン表示 → アイコン非表示 → ・・・
ボイスレコード
アイコン表示のみ

グリッド表示

静止画撮影モード時に、構図の決定に便利なグリッド線を表示することができます。

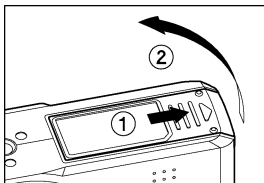
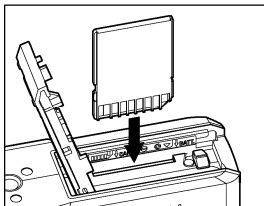
「**撮影設定**」(**P.26**)→「**グリッド表示**」より、好みの表示方法を選択してください。

切　(表示なし)	
— 4 分割　(4 分割実線表示)	**--- 4 分割**　(4 分割点線表示)
— 9 分割　(9 分割実線表示)	**--- 9 分割**　(9 分割点線表示)
— 16 分割　(16 分割実線表示)	**--- 16 分割**　(16 分割点線表示)

カードの入れ方と取り出し方

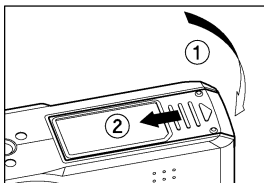
DP2X は、データの記録にメモリーカードが必要です。使用できるメモリーカードは SD メモリーカード、SDHC メモリーカード、マルチメディアカードです。

カードの入れ方

1

電源が OFF になっているのを確認し、図のように電池／カードカバーをスライドさせて開きます。

2

電池／カード室内の表示に従ってカードを入れます。

- カチッと音がするまでカードを押し込んでください。

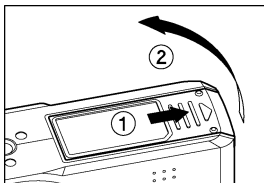
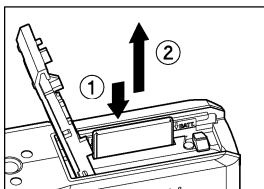
3

電池／カードカバーを閉めます。

- カチッと音がしてふたがロックされるまでスライドさせてください。

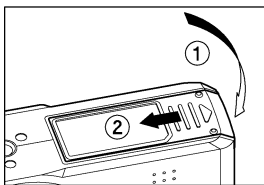
メ モ

- 必要に応じて使用前にカードを初期化してください。（**P.39** 参照）

カードの取り出し方

1

電源が OFF になっているのを確認し、図のように電池／カードカバーをスライドさせて開きます。

2

カードをカチッと音がするまで押し込み、まっすぐ引き抜いてください。

3

電池／カードカバーを閉めます。
カチッと音がしてふたがロックされるまでスライドさせてください。

警 告 !!

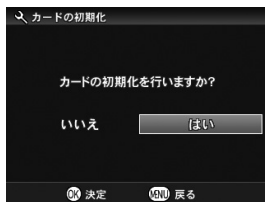
- アクセスランプの点滅中は、次のことは絶対に行わないでください。（アクセスランプの点滅中は、画像の書き込みや読み込み、消去がカメラとカードの間で行われています。次のことを行うと、画像データが消えたり、壊れる原因になります。）
  - ① カードを取り出さないでください。
  - ② 電池を取り出さないでください。
  - ③ カメラに衝撃や振動を与えないでください。

メ モ

- 電源を OFF にしても、カードへのアクセスが終了するまでは、アクセスランプが点灯し、電源が切れません。

カードの初期化

新しいカードは使用する前に初期化しなければなりません。また、他のファイルフォーマットで初期化されている場合や、データが壊れていたり、カードに異常がある場合も使用前に初期化する必要があります。

「**カメラ設定**」（**P.26**）→「**カードの初期化**」より初期化を行います。

「**カードの初期化**」画面で◀▶ボタンを押し、「**はい**」を選択してOKボタンを押します。

初期化を中止したい場合は◀▶ボタンを押して「**いいえ**」を選択して OKボタンを押します。

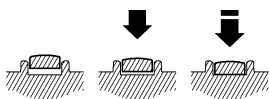
警 告!!

- 初期化はロックされた画像とそれ以外のファイルもすべて消去します。

メ モ

- 他のカメラや機器でカードを初期化すると、DP2X で正常に動作しなかったり、容量が少なくなっていることがあります。画像を最大限記録するには、使用前に DP2X で初期化してください。

シャッターボタンの押し方

シャッターボタンは 2 段階になっています。

軽く押して止まるところが 1 段目で、カメラが撮影状態になり、ピントの機構が作動します。この状態までシャッターボタンを押すことを“半押し”と言います。半押しの状態からさらに押し込むとシャッターが切れます。

メ モ

- 撮影をする前に、何回かシャッターを切って“半押し”の感覚をつかむと共に、カメラに慣れるように各部を操作して練習することをおすすめします。

設定の初期化

カメラの設定を初期の設定に戻すことができます。

「**カメラ設定**」(**P.26**)→「**リセット**」より初期化を行います。

撮影設定のリセット	「**撮影設定**」の項目を初期の設定に戻します。(マイセッティングの保存内容は保持されます。)
カメラ設定のリセット	「**カメラ設定**」の項目と、「**再生メニュー**」の「**スライドショー**」「**音声メモ**」「**露出警告**」「**OK ボタンの割り当て**」の項目を初期の設定に戻します。
工場出荷状態に戻す	完全な初期状態に戻すことができます(マイセッティングの保存内容も初期化されます)。

1

「**リセット**」のオープンメニュー画面上で⇕ボタンを押して、いずれかのリセットを選択しOKボタンを押します。

- 「**工場出荷状態に戻す**」は「リセット」のオープンメニュー画面上で、AELボタンを 1 秒間押し続けることで、選択できるようになります。

2

◀▶ボタンを押して「**はい**」を選択して OKボタンを押します。初期化を中止したい場合は◀▶ボタンを押して「**いいえ**」を選択して OKボタンを押します。

基本撮影

実際に撮影する上での基本的な操作を説明します。

露出のモードを選ぶ

露出を決める 4 つのモードの特徴と操作方法を説明します。

ご注意 !!

- 本章では、「**撮影設定**」メニューの「**◀▶ ⇕機能入換**」が、初期設定の状態を前提に説明しています。説明文と実際の操作方法が異なる場合は、**P.74**「**露出調整ボタンの機能入換**」をご覧ください。

P プログラムオート

気軽な撮影にはこのモードを選びます。被写体の明るさに応じて、カメラが最適なシャッター速度と絞りを決めてくれます。

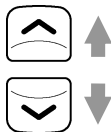
1
モードダイヤルを **P** にします。
（露出表示が緑色で表示されます。）

2
シャッターボタンを半押してピントを合わせ撮影します。

ご注意 !!

- シャッター速度が 1/25 秒より遅い場合、液晶モニタに アイコンが点灯し、手ぶれをおこしやすい状態になっていることを警告します。フラッシュ撮影 (**P.46, 69**) を行うか、三脚等に固定して撮影してください。
- 明るすぎたり暗すぎた場合、シャッター速度と絞り表示が点滅して警告します。そのまま撮影すると露出が合いません。

プログラムシフト

カメラが選んだシャッター速度と絞りの組み合わせを同じ露出を保ったままを変更することができます。 ボタンで希望するシャッター速度と絞りの組み合わせを表示させてください。

■ 撮影後は自動的に解除されます。

A 絞り優先オート

希望の絞りをセットし､被写体の明るさに応じてカメラが最適なシャッター速度を決めてくれます。絞り込んでピントの合う範囲を広げたり、絞りを開けて背景をぼかすなど､絞りの効果を生かした撮影ができます。

1

モードダイヤルを **A** にします。

（絞り値が緑色で表示されます。）

2

ボタンで希望の絞りを設定します。

（絞りは F2.8～F14 (1/3 ピッチ)の範囲で設定できます。）

3

シャッターボタンを半押してピントを合わせ撮影します。

ご注意 !!

- シャッター速度が 1/25 秒より遅い場合､液晶モニタに アイコンが点灯し、手ぶれをおこしやすい状態になっていることを警告します。フラッシュ撮影(**P.46, 69**)を行うか、三脚等に固定して撮影してください。
- 明るすぎたり暗すぎた場合、シャッター速度表示が点滅して警告します。明るすぎる場合は絞り込み（数字を大きく）、暗すぎる場合は絞りを開けて（数字を小さく）、点滅が消えるように調整してください。

S シャッター速度優先オート

希望のシャッター速度をセットし、被写体の明るさに応じてカメラが最適な絞りを決めてくれます。高速シャッターで動きを止めたり、低速シャッターで動きを表現するなど、シャッター速度の効果を生かした撮影ができます。

1

モードダイヤルを **S** にします。

（シャッター速度値が緑色で表示されます。）

2

ボタンで希望のシャッター速度を設定します。

（シャッター速度は 15 秒〜1/2000 秒 (1/3 ピッチ)の範囲で設定できます。）

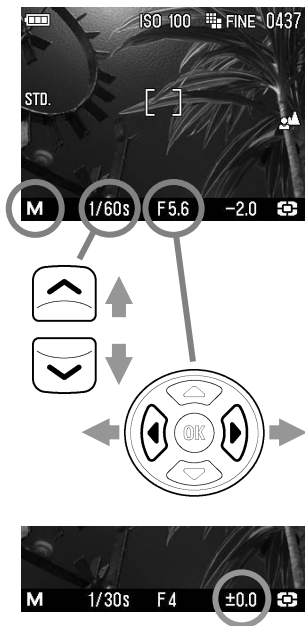
3

シャッターボタンを半押してピントを合わせ撮影します。

ご注意 !!

- 明るすぎたり暗すぎた場合、絞り表示が点滅して警告します。明るすぎる場合はシャッター速度を速くし、暗すぎる場合はシャッター速度を遅くして、点滅が消えるように調整してください。

M マニュアル露出

自分で希望のシャッター速度と絞りをセットします。カメラの露出メーターの数値に基づいて、わざと露出をずらして表現に工夫を加えたり、市販の外部露出計を利用して露出を決める場合などに使用します。

1

モードダイヤルを **M** にします。

（シャッター速度値が緑色、絞り値がオレンジ色で表示されます。）

2

ボタンで希望のシャッター速度を設定します。

3

露出メーターの数値が **±0.0** になるように ◀▶ボタンで絞りを設定します。

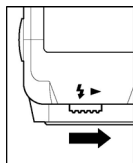
- 露出メーターの表示は 1／3 段ステップで±3 段まで表示されます。表示範囲を超えた場合、露出メーターの数字が点滅表示されます。

4

シャッターボタンを半押してピントを合わせ撮影します。

内蔵フラッシュを使う

このカメラは夜間の撮影に便利な S-TTL オート制御小型フラッシュを内蔵しています。

内蔵フラッシュ撮影

1

フラッシュポップアップレバーをスライドしてフラッシュ発光部をポップアップさせます。

2

液晶モニタのフラッシュモードのアイコンが点灯していることを確認して撮影します。

- フラッシュの充電中はフラッシュモードのアイコンとフォーカスランプ（赤）が点滅し、シャッターが切れません。
- フラッシュ撮影を終了したら、フラッシュ発光部を上から押して収納してください。

■フラッシュで撮影できる範囲は以下の通りです。（**P** モード時）

ISO 感度	フラッシュ調光範囲
ISO オート	0.28m 〜 4.3m
ISO50	0.28m 〜 1.5m
ISO100	0.28m 〜 2.1m
ISO200	0.28m 〜 3m
ISO400	0.28m 〜 4.3m
ISO800	0.28m 〜 6.1m
ISO1600（RAW のみ）	0.28m 〜 8.6m
ISO3200（RAW のみ）	0.28m 〜 12.1m

フラッシュモードの設定

通常のフラッシュ撮影のほかに、赤目緩和モードや調光補正などが設定できます。

クイックセットメニュー（**P.34**）、もしくは「**撮影設定**」（**P.26**）→「**フラッシュモード**」より設定します。

	通常発光 ＊
	赤目発光
SLOW	**スローシンクロ**
SLOW	**赤目発光＋スローシンクロ**

通常発光モード

内蔵フラッシュをポップアップした時、通常の発光が行われます。

■通常はこのモードに設定してください。

赤目緩和モード（赤目発光）

フラッシュを使用して人物を撮影すると、瞳が赤く写ることがあります。赤目緩和モードはシャッターが切れる前に数回のプリ発光を行い、赤目現象を緩和することができます。

■ 撮影条件や個人差により、完全に赤目現象を除去できない場合があります。

SLOW SLOW スローシンクロモード

P / **A** モード時のフラッシュ撮影では、シャッター速度が手ぶれを起こしにくいシャッター速度(1/40 秒以上)に制限されますが、スローシンクロモードに設定すると、明るさに応じて 15 秒までのスローシャッターで制御されます。夜景と人物の両方に露出の合った写真を撮ることができます。

ピントを合わせる

オートフォーカスの設定方法や、手動でのピント合わせについて説明します。

オートフォーカスによるピント合わせ

画面中央に被写体をいれてシャッターボタンを半押しします。

- ピントが合うとフォーカスフレームが緑色に変わります。（同時にフォーカスランプが緑色に点灯します）
- ピントが合わない場合、フォーカスフレームが点滅して警告します。（同時にフォーカスランプが赤色で点滅します）

通常のオートフォーカスモード（アイコンなしの状態）では、ピントの合う範囲が無限遠から 28cm です。**FOCUS** ボタンを 1 回押すと、スナップ撮影などに最適な LIMIT モード（アイコン表示）に切り替わります。ピントの合う範囲が無限遠から 1m までになりますが、ピントの合うスピードが速くなります。

オートフォーカスは、次のような被写体にはピントが合わない場合があります。

■白い壁など、コントラストのない被写体
■画面の中央に強い光源がある場合
■動きが速い場合
■フォーカスフレーム内に近くと遠くのものが混在している場合

ピントが合わない時は、ほぼ同距離にある被写体でフォーカスロック撮影するか、マニュアル（手動）でのピント合わせを行ってください。

- ピントが合った時（フォーカスフレームが緑色の時）に、シャッターボタンを半押ししたまま ⏶ ボタンを押すと、拡大表示になりピントの状態が確認できます。（拡大表示中は液晶モニタに 🔍 アイコンが表示されます。）シャッターボタンを半押ししたまま ⏷ ボタンを押すと通常表示に戻ります。

フォーカスフレームの選択

DP2X は、画面内に 9 箇所のフォーカスフレームを備えており、ピントの合うポイントを選択することができます。

1

▦ ボタンを押します。

2

◀▲▼▶ ボタンで希望のフォーカスフレームを選択し、OK ボタンを押して確定します。

フォーカスロック撮影

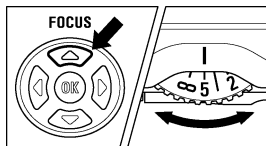
被写体がフォーカスフレームに入らない場合の撮影方法です。

1

フォーカスフレームに被写体を入れてシャッターボタンを半押しし、ピントを合わせます。

2

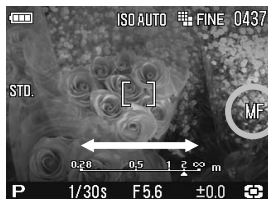
ピントが合い、フォーカスフレームが緑色に変わったら、シャッターボタンを半押ししたまま、構図を決めて撮影します。

マニュアル（手動）でのピント合わせ

オートフォーカスが苦手な被写体や、フォーカスロックが行えない場合、マニュアルでピントを合わせてください。

1

FOCUS ボタンを数回押して、MF モードにします。（液晶モニタに **MF** アイコンとスケールバーが表示されます。）

2

MF ダイヤルを左右に回し、ピントを合わせたい部分がハッキリ見える位置にあわせます。

拡大表示によるピント合わせ

MF モード時に OK ボタンを押すと拡大表示になり、ピントが合わせやすくなります。（同時に画面下端の露出表示部が、ボタン割当変更ガイドに変わります）。再度 OK ボタンを押すと通常表示に戻ります。（画面下端の露出表示部が、通常表示に戻ります。）

- 拡大表示中は液晶モニタに 🔍 アイコンが表示されます。シャッターボタンを半押しすると、拡大表示が一時的に解除されます。
- 拡大表示は、液晶モニタに表示されているフォーカスフレームを中心として拡大されます。フォーカスフレームの変更は、**P.49** の「フォーカスフレームの選択」を参照してください。
- 拡大表示中は、▲ボタンでも、拡大表示と通常表示を切り替えできます。▲ボタンで通常表示に戻した場合、画面下端の露出表示部が、ボタン割当変更ガイドに変わったままとなります。ボタン割当変更ガイドを解除するには、再度OK ボタンを押してください。

ご注意!!

- MF ダイヤルの目盛とスケールバーの表示は、実際の距離と異なる場合があります。あくまでも目安としてお使いください。

メ モ

- スケールバーの目盛の単位を変更することができます。「**カメラ設定**」（**P.26**）→「**MF スケールの単位**」より、**m**（**メートル**）、**ft**（**フィート**）のいずれかを選択してください。

ドライブモードを選ぶ

セルフタイマーや連写などの、カメラの動作モードを説明します。

クイックセットメニュー（**P.34**）、もしくは「**撮影設定**」（**P.26**）→「**ドライブモード**」より設定します。

□	**1 コマ撮影 ＊**
	連続撮影
	セルフタイマー2 秒
	セルフタイマー10 秒

1 コマ撮影

1 コマ撮影

シャッターを押して撮影が終了すると1コマ分撮影され、次の撮影のスタンバイ状態になります。通常は1コマ撮影にセットしてください。

■「**1 コマ撮影**」設定時は、撮影画面にドライブモードアイコンは表示されません。

連続撮影

連続撮影

シャッターを押し続けている間、連続撮影ができます。

- 連続撮影できるコマ数は、JPEG 設定時で 4 コマ、RAW 設定時は 3 コマです。

ご注意!!

- 連続撮影された画像データは、一旦カメラ内蔵のバッファーメモリに書き込まれます。バッファーメモリに空き容量がなくなると、それ以上はシャッターが切れなくなります。画像データがバッファーメモリからカードに転送され、空き容量ができた時点で次の撮影が可能になります。

セルフタイマー撮影

記念撮影で撮影者も一緒に写りたい場合や、カメラブレを防ぐ目的で使用することができます。

セルフタイマー2 秒

シャッターボタンを押してから約 2 秒後にシャッターが切れます。

セルフタイマー10 秒

シャッターボタンを押してから約 10 秒後にシャッターが切れます。

構図を決め、シャッターボタンを半押ししてピントを合わせます。さらにシャッターボタンを押し込むとセルフタイマーが作動します。作動中は電子音が鳴り、２秒前になると電子音が速くなり知らせます。

■「**カメラ設定**」(**P.26**)→「**音声設定**」→「**操作音**」の設定が「**切**」に設定されていると、セルフタイマー動作時にも音が鳴りません。

■セルフタイマーを作動中に解除をしたい場合は、電源スイッチを OFF にしてください。

応用撮影

“写真の表現に工夫を加えたい”そんな時に応えてくれる機能の説明をします。

ホワイトバランスの選択（WB）

人間の目は、照明の種類が変わっても、白いものは白く見えるように自動的に調整する能力をもっています。フィルムカメラの場合は、フィルターで調整したり、使用する光源に適したフィルムを選択して対処します。デジタルカメラは、人間の目のような調整能力をソフトウェアでおぎなうことができます。この調整をホワイトバランスと言います。自動的にホワイトバランスを調整する機能をオートホワイトバランスと言います。

- 通常、ホワイトバランスは、初期設定の「**オート**」（**AWB**）により自動調整されますが、マニュアルでセットすることもできます。
- マニュアルでセットする場合は、照明の種類が明らかになっている必要があります。
- マニュアルでセットできる光源の種類は、次ページの表のとおりです。
- 次ページの表内の「**カスタム**」とは、実際の照明下で撮影し、取り込んだ画像を基準としてホワイトバランスを調整する、カスタムホワイトバランスモードです。（**P.55** 参照）

ホワイトバランスには以下のモードがあります。

	モード	**色温度**	**内　容**
(**AWB**)	**オート ＊**	―	カメラが自動的に最適なホワイトバランスを決定します。 通常はこのモードにセットしてください。
☀	**晴れ**	約 5400K	晴天の屋外で撮影するときに選択します。
	日陰	約 8000K	晴天の屋外の日陰などで撮影するときに選択します。
	くもり	約 6500K	曇天の屋外などで撮影するときに選択します。
	白熱電球	約 3000K	白熱電球の照明下で撮影するときに選択します。
	蛍光灯	約 4100K	白色蛍光灯下で撮影するときに選択します。
ϟ	**フラッシュ**	約 7000K	エレクトロニックフラッシュ EF-140 DG SA-STTL を使用して撮影するときに選択します。
	カスタム	―	実際に取り込んだ画像を基準とし、ホワイトバランスが設定されます。(**P.55**)

クイックセットメニュー（**P.34**）、もしくは「**撮影設定**」（**P.26**）→「**ホワイトバランス**」より設定します。

- 「**オート**」（**AWB**）設定時は、撮影画面にホワイトバランスのアイコンは表示されません。

クイックセットメニューの（カスタム）を選択した場合、「**撮影設定**」（**P.26**）→「**ホワイトバランス**」→「**カスタム**」で最後に取り込まれた設定値で撮影されます。

新しく基準値を取り込みたい場合は、「**撮影設定**」（**P.26**）→「**ホワイトバランス**」→「**カスタム**」より取り込みをしてください。（次ページ参照）

カスタムホワイトバランスの設定

カスタムホワイトバランスは、実際に取り込んだ画像を基準として、ホワイトバランスを設定する方法です。

1

「**撮影設定**」（**P.26**）→「**ホワイトバランス**」→「**カスタム**」を選択し、OKボタンを押して、カスタムホワイトバランス取り込み画面を表示させます。

2

実際に撮影を行いたい照明下で、基準にしたい白い被写体（白い紙や、白い壁など）を画面中央の枠に入れてシャッターボタンを押します。

取り込みがうまくいった場合は「**ホワイトバランス画像の取り込みに成功しました。**」とメッセージが表示されます。

「**取り込みに失敗しました！・・・**」とメッセージが出た場合は、再度シャッターボタンを押してください。
中止したい場合は MENU ボタンを押してください。

メ モ

- カスタムホワイトバランス取り込み画面でOKボタンを押すと、前回取り込んだ設定値がセットされます。

ISO 感度の設定

フィルムカメラで、用途に合わせて感度の違うフィルムを選ぶように、撮影時の感度を選択することができます。（ISO 感度 **P.111**）

クイックセットメニュー（**P.34**）、もしくは「**撮影設定**」（**P.26**）→「**ISO 感度**」より設定します。

ISO オート ＊	**ISO 50**
ISO 100	**ISO 200**
ISO 400	**ISO 800**
ISO 1600（RAW 設定時のみ）	**ISO 3200**（RAW 設定時のみ）

- 設定できる ISO 感度は、ISO50～800（JPEG 設定時）ISO50～3200（RAW 設定時）となります。

ご注意!!

- 「**ISO オート**」を選択した場合、明るさによって ISO100 か 200 が自動選択されます。フラッシュ撮影の場合は ISO100、200、400 から自動選択されます。
- **M** モード時は「**ISO オート**」を選択できません。**S**、**A**、**P** モード時に「**ISO オート**」を選択した場合、**M** モード時は **ISO100** で撮影されます。

画像の設定

記録画像は、使用目的によって、“画像サイズ”と“画質”を変更することができます。

		画像サイズ			
		HI 2640×1760	WIDE 16:9 2640×1485	MED 1872×1248	LOW 1312×880
画　質	**RAW** (RAW)	15.4MB			
	FINE (JPEG)	3.3MB	2.7MB	1.6MB	0.8MB
	NORMAL (JPEG)	1.9MB	1.6MB	0.9MB	0.5MB
	BASIC (JPEG)	1.4MB	1.2MB	0.7MB	0.3MB

＊ファイルサイズは被写体によって変化します。

画質について

DP2X は、付属ソフトによる現像が必要な **RAW** 形式と、汎用性の高い **JPEG** 形式のいずれかで画像を記録することができます。
RAW 形式は、カメラ内でデジタル的な処理は行わず、素材性を重視した記録方式です。付属ソフトによる現像作業が必要ですが、ソフトで汎用性の高い **JPEG** 形式や **TIFF** 形式に変換できます。

画像サイズの設定

クイックセットメニュー（**P.34**）、もしくは「**撮影設定**」（**P.26**）→「**画像サイズ**」より設定します。

HI＊	**WIDE 16:9**
MED	**LOW**

画質の設定

クイックセットメニュー（**P.34**）、もしくは「**撮影設定**」（**P.26**）→「**画質**」より設定します。

FINE ＊　(JPEG)	**NORMAL** (**NORM**)　(JPEG)
BASIC　(JPEG)	**RAW**　(RAW)

ご注意 !!

- RAW モード時の画像サイズは **Hi** モードのみになります。（画像サイズのアイコンは表示されません。）
- 画質を RAW に設定すると、一時的に画像サイズの設定ができなくなります。画質を RAW 以外に設定すると、画像サイズの設定が可能となります。

カラースペース

一般的な色空間である sRGB か、主に商用印刷など業務分野で使われている Adobe RGB を選択することができます。

「**撮影設定**」（**P.26**）→「**カラースペース**」より設定します。

sRGB ＊	**Adobe RGB**

ご注意!!

- 通常、カラースペースは sRGB に設定してください。Adobe RGB に設定された画像を扱う場合は、必ず付属のソフトか、DCF2.0 に準拠したソフトを利用してください。

ピクチャーセッティング

好みの画像に仕上がるように、画像のパラメーター（コントラスト、シャープネス、彩度）を調整することができます。

コントラスト

+側にすると明暗差が強くなり、メリハリの効いた画像になります。–側にすると明暗差が弱くなり、白飛びや黒つぶれを少なくすることができます。

シャープネス

+側にすると輪郭のはっきりとした鮮明な画像になります。–側にすると輪郭のやわらかいソフトな画像になります。

彩度

+側にすると彩度が高くなり、色鮮やかな画像になります。–側にすると彩度が低くなり、落ち着いた画像になります。

「**撮影設定**」（**P.26**）→「**ピクチャーセッティング**」より設定します。

ピクチャーセッティング画面で、ボタンを押して「**コントラスト**」、「**シャープネス**」、「**彩度**」のいずれかを選択し、ボタンで調整量をセットします（0.2 ピッチで±1.0 まで調整できます）。

確定する場合はボタンを、変更しない場合はMENU ボタンを押してください。

パラメーターを調整すると、画面左側に調整中のパラメーターアイコンと調整量が表示されます。

メ モ

- JPEG データの場合、パラメーター調整が行われた後に圧縮処理されます。RAW データの場合、画像には調整が行われずにパラメーター情報が記録されます。付属ソフトでデータを展開したときに反映され、ソフト上でも再調整を行うことができます。

測光モード

被写体の状況に合わせ、3つの測光方式を選べます。

クイックセットメニュー（**P.34**）、もしくは「**撮影設定**」（**P.26**）→「**測光モード**」より設定します。

	評価測光 ＊
	中央重点測光
	スポット測光

評価測光

画面を 256 分割し、それぞれの部分の測光情報をもとにカメラが被写体の状況を判断して最適な露出を算出します。逆光や露出決定が難しい光線状態でも最適となる露出を判断します。（通常はこのモードにセットしてください。）

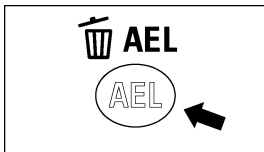
中央重点測光（中央部重点平均測光）

画面中央部分にウエイトを置き、画面全体の平均的な明るさを算出します。順光などの比較的光線状態が良い場合に、最適な露出がえられます。

スポット測光

中央フォーカスフレームの範囲内の明るさのみを算出します。周辺の明るさに影響されず、被写体の特定のポイントに露出を定めたいときに有効です。

AE ロック

AELボタンを押すと、その時の露出が固定されます。画面中央部に写したい被写体が無い場合などに便利です。特に、スポット測光との組合わせで有効です。

1

露出を合わせたい部分を画面の中央部に合わせAELボタンを押します。

（露出が固定され、画面中央上側に **AEL** アイコンが表示されます。）

2

好みの構図にしてシャッターを切ります。

- もう 1 度 AELボタンを押して AE ロックを解除するまで、何枚でも同じ露出で撮影できます。

AE ロックボタンの割り当て

AELボタンは、通常の AE ロック機能のほかに、フォーカスロック機能を割り当てることができます。

「**撮影設定**」（**P.26**）→「**AEL ボタンの設定**」より設定します。

AEL *
中央 AFL
中央 AFL+AEL

中央 AFL

ボタンを押すと、中央のフォーカスフレームでピント合わせがスタートし、AF ロックされます。（露出はシャッターボタン半押し時に固定されます。）

AEL+中央 AFL

ボタンを押すと、中央のフォーカスフレームでピント合わせがスタートし、AF ロックと AE ロックが同時に行われます。

半押しレリーズ AEL

シャッターボタンを半押しした時に、露出を固定する、もしくは固定しない設定を選ぶことができます。

「**撮影設定**」（**P.26**）→「**半押しレリーズ AEL**」より設定します。

切	シャッターボタンを半押しした時点では露出が固定されません。全押しした時点の露出で撮影されます。
入 ＊	シャッターボタンを半押しした時点の露出が固定されます。半押し状態で構図を変えても、半押しした時点の露出で撮影されます。

露出補正

カメラが判断した適正露出に対し、意図的に明るめにしたり、暗めにしたい場合、この機能を使います。

◀▶ボタンで補正量をセットします。

- 補正量は 1／3 段ピッチで、±3 段までできます。

ご注意!!

- 露出補正は自動的に解除されません。撮影が完了したら ◀▶ボタンを押して、補正量を±0.0 に戻してください。
- 露出補正は **M** モードとの併用はできません。

調光補正

背景の露出には影響を与えずに、フラッシュの光量のみ補正することができます。

1

フラッシュをポップアップし、OKボタンを押します。（画面下端の露出表示部が、ボタン割当変更ガイドに変わり、画面左上に調光補正アイコンと補正量(オレンジ色)が表示されます。）

•フラッシュが収納された状態では、調光補正のセットができません。

2

◀▶ボタンで補正量をセットします。

•補正量は 1／3 段ピッチで、±3 段までできます。

3

OKボタンを押して確定します。（補正量が白に変わり、画面下端の露出表示部が、通常表示に戻ります。）

ご注意!!

- 調光補正は自動的に解除されません。撮影が完了したら、上記手順にて補正量を**±0.0** に戻してください。

オートブラケット機能

カメラが判断した適正露出をはさんで、明るめと暗めに露出をずらした写真を連続で撮ることができます。

1

OK ボタンを押します。（画面下端の露出表示部が、ボタン割当変更ガイドに変わり、画面左上にアイコンとずらし量(緑色)が表示されます。）

- フラッシュがポップアップされていると、オートブラケットのセットができません。

2

ボタンで、ずらし量をセットします。
- ずらし量は、1／3 段ピッチで±3 段まで設定できます。

3

OK ボタンを押して確定します。（ずらし量が白に変わり、画面下端の露出表示部が、通常表示に戻ります。）

■ 初期設定では、適正 → アンダー → オーバー の順序で撮影されます。

■ 各モードでの補正は以下のように行われます。

P　シャッターと絞りが共に変化します。
A　シャッター速度が変化します。
S　絞りが変化します。
M　設定したシャッター速度を中心としてシャッター速度が変化します。

メ モ

- シャッターボタンを押すと、3 コマ連続して撮影されます。ドライブモードがセルフタイマーに設定されている場合は、設定秒数後に 3 コマ連続撮影されます。

メ モ

- 「**撮影設定**」(**P.26**)の「**撮影画像確認**」が 「**切**」以外に設定されていると、3 コマ撮影後、3 コマ確認表示となり、露出の変化が一目でわかります。

ご注意!!

- オートブラケット機能は自動的に解除されません。撮影が完了したら同じ手順でずらし量を±**0.0** に戻すか、電源を OFF にしてください。
- オートブラケット機能はフラッシュ撮影と併用できません。フラッシュをポップアップすると、オートブラケットの設定が解除されます。

■オートブラケットアイコンが以下のように変化し、何コマ目の撮影かがわかります。

1 コマ目	2 コマ目	3 コマ目

■オートブラケットの撮影順序を変更することができます。

「**撮影設定**」(**P.26**)→「**オートブラケットの順序**」より設定します。

0 → - → + ＊	(適正 → アンダー → オーバー)
- → 0 → +	(アンダー → 適正 → オーバー)
+ → 0 → -	(オーバー → 適正 → アンダー)

オートブラケットは露出補正と組み合わせて使用できます。

カメラが判断した適性露出に対して、明るめや暗めな露出を基準にしたオートブラケット撮影ができます。前記の手順に従って、露出補正とオートブラケットの両方の設定を行ってください。どちらを先にセットしても結構です。

例えば、露出補正量+1.7、オートブラケットのずらし量を 1.0 とセットした場合の動作は以下のようになります。

1 コマ目	**+1.7** 露出補正量+1.7、ずらし量なし
2 コマ目	**+0.7** 露出補正量+1.7 と、ずらし量−1.0 の合成値
3 コマ目	**+2.7** 露出補正量+1.7 と、ずらし量+1.0 の合成値

カラーモード

各撮影シーンに最適な色調、コントラストなどを調整したカラーモードを選択できます。また、セピア調、モノクローム調の写真を撮ることができます。

クイックセットメニュー（**P.34**）、もしくは「**撮影設定**」（**P.26**）→「**カラーモード**」より設定します。

STD. **スタンダード＊**	さまざまなシーンに対応する基本的なカラーモードです。
VIVID **ビビッド**	彩度、コントラストが高めに設定され、鮮やかな印象に表現します。
NTR. **ニュートラル**	彩度、コントラストが控えめに設定され、落ち着いた雰囲気を再現します。
ポートレート	肌の階調を柔らかく表現する、人物撮影に適したモードです。
風景	青空や緑をより鮮やかに表現し、メリハリのある風景を再現します。
B/W **白黒**	白黒（無彩色）の写真を撮ることができます。
SEPIA **セピア**	セピア調のモノトーンの写真を撮ることができます。

- 画面左側に、設定された色モードのアイコンが表示されます。

メモ

- カラーモードは、ピクチャーセッティングを併用することにより、より自分好みの写真に近づけることができます。例えば、ビビッドモードで彩度を+側に調整すると、より鮮やかさを増すことができます。

ご注意 !!

- **カラーモード**の **[白黒]** 及び **[セピア]** は、画質が **RAW** の場合は設定できません。**JEPG**（**FINE**, **NORMAL**, **BASIC**）時のみ設定できます。

音声付静止画

撮影の直後に、音声を記録することができます。撮影時の状況などをメモ代わりに声で記録するなど、非常に便利な機能です。

音声の記録時間は、10 秒、もしくは 30 秒を選択することができます。

「**撮影設定**」（**P.26**）→「**音声付静止画**」より設定します。

切*（音声記録しない）
10 秒
30 秒

音声付静止画を設定すると、画面右側にアイコンとカウンターが表示されます。

シャッターボタンを押して、カメラ内での画像処理（数秒掛かる場合があります）の後に音声の記録がスタートします。（記録中は画面の アイコンとアクセスランプが点滅し、画面右上のカウンターがカウントダウンされます）

設定時間が経過すると、自動的に録音が停止します。途中で録音を停止させたい場合は、再度シャッターボタンを押してください。

音声付静止画の再生に関しては、**P.81** 「**音声付画像を再生する**」をご覧ください。

ご注意 !!

- 音声付静止画機能は、撮影後も解除されずに繰り返し行われます。機能を解除するには、上記手順で「**切**」に設定してください。

メ モ

- 画像に付けられた音声は、WAV 形式で記録されます。画像が記録されるフォルダに、画像と同じファイル番号の別ファイルとして保存されます。例えば、ファイル番号 SDIM0010.JPG に付けられた音声は SDIM0010.WAV となります。

外部フラッシュ撮影について

DP2X は外部フラッシュを取り付けることができるホットシューを備えており、自動調光撮影ができる専用小型フラッシュが用意されています。内蔵フラッシュよりもより遠くまで光が届き、レンズフード使用時もフラッシュ光のケラレが生じません。

エレクトロニックフラッシュ EF-140 DG SA-STTL（別売）

○ 最大ガイドナンバー14（ISO100）内蔵フラッシュの約 2.3 倍の到達距離の光量が得られます。

○ S-TTL 方式による自動調光撮影が可能です。

○ 単 4 形ニッケル水素電池（推奨）を 2 本使用。DP2X とベストマッチの小型軽量設計です。

○ 自動調光撮影に加え、マニュアル発光も可能です。

○ シグマデジタル一眼レフカメラ **SD14・SD15** にもご使用になれます。S-TTL 方式による自動調光撮影が可能です。

縦位置自動記録

縦位置で撮影された情報を画像に記録することができます。

「**撮影設定**」（**P.26**）→「**縦位置自動記録**」より設定します。

切	縦位置情報を記録しない
入＊	縦位置情報を記録する

初期設定では「**入**」に設定されています。

- 縦位置情報が記録された画像は、再生時に自動的に縦方向に回転されて表示されます。
- 縦位置情報が記録された画像をソフトウェア **SIGMA Photo Pro** で開いた場合、自動的に縦方向に回転されて表示されます。
- 縦位置情報が記録された画像を「**再生メニュー**」の「**回転**」で向きを変更した場合、その後は変更された状態で表示されます。

ご注意!!

- カメラを斜めに構えたり、上向き、下向きで撮影した場合、縦位置情報が正しく記録されない場合があります。

インターバルタイマー

一定の時間間隔で、自動撮影を行うことができます。

ご注意 !!

- インターバルタイマー撮影は、電池残量により途中で電池切れとなり、撮影が中断することがあります。AC アダプター（別売）のご使用をおすすめします。

「**撮影設定**」（**P.26**）→「**インターバルタイマー**」より設定します。

オープンメニュー上で「**入**」を選択すると、インターバル設定画面に移ります。

1

ボタンで「**インターバル**」を選択し、ボタンで撮影間隔を設定します。

- 次の間隔から選択できます

30 秒、1 分、5 分、10 分、15 分、30 分、45 分、1 時間、3 時間、6 時間、12 時間、24 時間

2

ボタンで「**回数**」を選択し、ボタンで撮影回数を設定します。

- 次の回数から選択できます

2 回、3 回、5 回、7 回、10 回、20 回、30 回、40 回、50 回、75 回、99 回、∞（無制限）

3

OK ボタンで設定を確定し、シャッターボタンを押して撮影を開始します。

- 撮影が開始されると、次のコマが撮影されるまでの時間と、残り枚数が表示されます。
- 撮影が開始されると、LCD スリープで設定された時間で液晶モニタが消灯し、次の撮影の数秒前に液晶モニタが点灯し、撮影、液晶モニタ消灯を繰り返します。

- オートフォーカスで撮影の場合、2 枚目以降も最初の撮影で AF ロックされたピント位置で撮影されます。

- マニュアルフォーカスで撮影の場合、2 枚目以降も MF ダイヤルによるピント位置の変更が可能です。

  （2 枚目以降は、拡大表示によるピント合わせはできません。）

  （2 枚目以降、ピント位置をずらしたくない場合は、MF ダイヤルを回さないようご注意ください。）

- 露出は撮影のたびに再測光されます。2 枚目以降も 1 枚目と同じ露出で撮影したい場合は、M モード、もしくは AE ロックボタンにより露出を固定して撮影してください。

- 撮影途中でインターバルタイマーを中止する場合は、シャッターボタンを押します。

- ドライブモードをセルフタイマーにセットした場合、1 枚目のみセルフタイマーが動作します。

- ドライブモードを連写にセットした場合、JPEG 設定時は 4 枚、RAW 設定時は 3 枚、その都度連続撮影されます。

- オートブラケットを設定した場合、その都度 3 枚連続撮影されます。

ご注意 !!

- インターバルタイマーは、撮影後も解除されずに繰り返し行われます。機能を解除するには、オープンメニュー上で「**切**」に設定してください。
- 設定条件によっては画像処理に時間がかかり、設定した時間よりも長いインターバルになることがあります。

マイセッティング

好みの設定を登録し、簡単に呼び出すことができます。（3 つのパターン登録することができます。）

「**撮影設定**」（**P.26**）の以下の項目の設定を一括登録できます。

画像サイズ	**画質**	**フラッシュモード**
ドライブモード	**測光モード**	**縦位置自動記録**
音声付静止画	**カラーモード**	**カラースペース**
オートブラケットの順序	**ピクチャーセッティング**	
半押しレリーズ AEL 設定	**◀▶ 機能入換**	
AEL ボタン設定		

設定の保存

1

上記の「**撮影設定**」（**P.26**）の項目を一通り好みの状態に設定します。

2

「**撮影設定**」（**P.26**）→「**マイセッティングの保存**」より、◀▶ボタンで **A**、**B**、**C** のいずれかを選び、OK ボタンで確定します。

ご注意 !!

- 保存を確定すると、以前に保存されていた設定は新しい設定に上書きされます。

設定の呼出し

「**撮影設定**」（**P.26**）→「**マイセッティングの呼出**」より、◀▶ボタンで **A**、**B**、**C** のいずれかを選び、OK ボタンで確定します。

- カーソルを合わせると、それぞれの登録内容が一覧表示されます。

露出調整ボタンの機能入換

絞りやシャッタースピードの変更や、露出補正の設定は ◀▶ボタンと⊜ボタンを使用しますが、各露出モードごとに、これらのボタンの割り当てを変更することができます。

「**撮影設定**」(**P.26**)→「◀▶⊜**機能入換**」より設定します。

◀▶ボタンで露出モードを選択し、⬍ボタンで機能を変更し、OKボタンで確定します。

- ボタンの割り当てを初期状態に戻したい場合は、◀▶ボタンで「**リセット**」に合わせ、OKボタンで確定してください。

「◀▶⊜**機能入換**」画面の説明

撮影画像の再生、消去

ここでは、撮影した画像の再生や消去の仕方について説明します。

メ モ

- 他のカメラで撮影した画像や、ファイル名を変更したり、カード内の DCIM フォルダから移動させた画像ファイルは、表示できない場合があります。

撮影画像確認

DP2X では、撮影後すぐに液晶モニタに画像を自動的に表示させることができます。この機能は、露出や構図を即座にチェックするのに役立ちます。

撮影画像確認時間の設定

撮影直後の画像を液晶モニタに表示させる時間を設定します。

「**撮影設定**」（**P.26**）→「**撮影画像確認**」より設定します。

撮影画像確認時間設定項目

しない	表示しません
2 秒 ＊	2 秒間表示します。
5 秒	5 秒間表示します。
10 秒	10 秒間表示します。

メ モ

- 手動で撮影画像確認画面の表示を消す場合は、シャッターボタンを半押ししてください。

ご注意 !!

- 撮影画像確認画面では、拡大表示、他の画像への切りかえはできません。

撮影画像の再生

DP2X で撮影した画像を様々な方法で再生することができます。

DP2X で撮影した画像を再生するには、本体背面の ▶ボタンを押します。カードに最後に記録された画像が、液晶モニタに表示されます。

▶ボタンを押すと、画像が再生されます。

再度 ▶ボタンを押すと撮影状態に切り替わります。

メ モ

- 電源 OFF の状態でも、約 2 秒間 ▶ボタンを押し続けると電源が入り、画像が再生されます。
- 撮影画像を再生してから新たに撮影した画像がない場合は、最後に再生した画像が表示されます。
- カードに画像がない場合は、"**画像がありません**" と警告表示されます。
- 画像の再生中でも、▶ボタンを押すか、シャッターボタンを半押しすると、すぐに撮影を始めることができます。

1 画像再生

記録された画像を見るには、本体背面の ▶ボタンを押します。

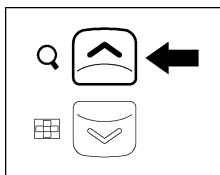
1 画像再生中は：

- ▶ボタンを押すと、次の画像を表示します。
- ◀ボタンを押すと、前の画像を表示します。

メ モ

- 十字コントローラーを押したままにすると、より速く画像を切り替えることができます。画像の切替えは、ボタンを離すまで自動的に行われます。
- 最初と最後の画像はリンクしています。最初の画像で ◀ボタンを押すと最後の画像が表示されます。また、最後の画像で ▶ボタンを押すと最初の画像が表示されます。

拡大して表示する（拡大表示）

画像を拡大表示することができます。画像を詳細に見たり、ピントのチェックに便利です。

1 画像再生中に ⌃ ボタンを押します。

拡大率は以下の通りです。
等倍→**X1.25→X1.6→X2.0→X2.5→X3.15→X4.0→X5.0→X6.3→X8.0→X10.0**

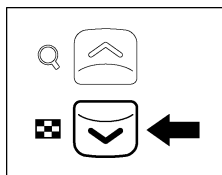
拡大表示中は：

- ⌃ ボタンを押すとより拡大されます。
- ⌄ ボタンを押すと縮小されます。
- 十字コントローラーの ⬍ で上下方向に、◀▶で左右方向に再生部分を移動できます。
- **MENU** ボタンを押すと等倍に戻ります。

メ モ

- 拡大表示中は十字コントローラーで画像を切替えることはできません。⌄ ボタンを押す、もしくは **MENU** ボタンを押して等倍（1 画像再生）に戻ると、十字コントローラーによる画像の切替えができるようになります。

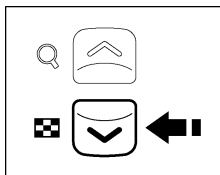
9 画像表示（コンタクトシート表示）

9 画面表示の「コンタクトシート」では、複数の画像を一度に表示することができます。

1 画像再生中に ボタンを押します。

コンタクトシート表示では：

- ボタンで画像の選択切替えができます。
- ボタンを押すと、1 画像再生に戻ります。
- ボタン押すとジャンプモードになります。

1度に1ページ表示する（ジャンプモード）

より速く画像をまとめて見たり、最初あるいは最後のページに一気にスキップするときにジャンプモードを使用します。

1 画像再生で ⌄ ボタンを 2 回（コンタクトシート表示からは 1 回）押します。

ジャンプモードでは：

- ▼ボタンを押すと、次のページを表示します。
- ▲ボタンを押すと、前のページを表示します。
- ▶ボタンを押すと、最後のページを表示します。
- ◀ボタンを押すと、最初のページを表示します。
- ⌃ボタンを押すと、コンタクトシート表示に戻ります。

メ モ

- 最初と最後の画像はリンクしています。最初の 9 画像のページで ▲ボタンを押すと、最後のページが表示されます。最後のページで ▼ボタンを押すと、最初のページが表示されます。

音声付画像を再生する

音声付静止画 (**P.68**)、音声メモ機能 (**P.97**) によって画像に付けられた音声を再生します。

1

1 画像再生時に音声の付いた画像が選択されると、🎙 アイコンと操作ガイドアイコンが表示されます。

2

▼ボタンを押すと、音声が再生されます。

▲ボタンを押すと、音声が停止します。

ご注意 !!

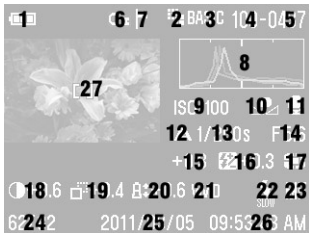
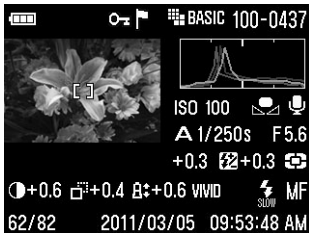
- 拡大表示、コンタクトシート表示、ジャンプモード表示時は、音声の再生ができません。

メ モ

- カメラ設定メニューにより設定されたスピーカー音の音量で再生されますが、音声の再生中にダイレクトでスピーカー音の調整ができます。▽ボタンを押すと音量が小さくなり、△ボタンを音量が大きくなります。
- 画像に付けられた音声は、画像と同じファイル番号の WAV 形式ファイルとして保存されています。例えば、ファイル番号 SDIM0010.JPG に付けられた音声は SDIM0010.WAV となります。パソコンに移したファイルを再生する場合は、画像と音声を関連付けた再生はできません。音声は WAV ファイルの再生が可能なソフトで再生してください。

画像情報を見る

撮影された画像の詳細情報を見ることができます。シャッター速度や絞り値以外に、測光モードやフォーカスモードなど、詳細な情報が表示されます。

1 画像再生中に IDI ボタンを２回押します。

1	電池残量表示
2	画像サイズ
3	画質
4	フォルダ番号
5	ファイル番号
6	ロック ※
7	マーク ※
8	ヒストグラム
9	ISO 感度
10	ホワイトバランス
11	音声メモ ※
12	露出モード
13	シャッター速度
14	絞り値

15	露出補正値 ※
16	調光補正値 /（オートブラケット）※
17	測光モード
18	コントラスト ※
19	シャープネス ※
20	彩度 ※
21	カラーモード
22	フラッシュモード ※
23	フォーカスモード ※
24	ファイル順 / ファイル数
25	年月日
26	時分秒
27	フォーカスフレーム

※設定時のみ表示されます。

画像情報スクリーンでは：

●再度 I□I ボタンを押すと、通常の１画像再生表示に戻ります。

●1 画像再生と同様に、 ◀▶ボタンで画像の切替えができます。

ご注意 !!

● 拡大表示中は、画像の切り換えができません。MENU ボタンを押すか、▽ボタンで等倍に戻すと切り替えができます。

拡大表示での画像情報画面

拡大表示で画像情報画面にすると、画像の特定領域の詳細なヒストグラム情報を見ることができます。

• ヒストグラムについての詳細は次の項目をご覧ください。

1

画像を任意の倍率にし、調べたい領域を表示させます。（**P.78** 参照）

2

I□I ボタンを押します。

拡大された部分の画像が小さく表示され、その部分のみのヒストグラム値が表示されます。

拡大表示での画像情報画面では：

●十字コントローラーの ▲▼で上下方向に、 ◀▶で左右方向に再生部分を移動できます。（ヒストグラム値が自動的に変わります。）

●▽ボタンで縮小、△ボタンで拡大ができます。

●MENU ボタンを押すと拡大表示が解除され、通常の画像情報表示に戻ります。

（再度 I□I ボタンを押すと画像情報が消え、通常の１画像再生表示に戻ります。）

●I□I ボタンを押すと画像情報が消え、通常の拡大表示に戻ります。

ヒストグラム

ヒストグラムは、画像の明るさの分布をグラフ表示にしたものです。水平軸は明るさのレベルを示し、左方向ほど暗く、右方向ほど明るくなります。垂直軸は各明るさの画素の登場回数を表しています。グラフの分布状態を見ることにより、露出の判断の参考にすることができます。

DP2X のヒストグラム表示は、R（赤）G（緑）B（青）それぞれのレベルを同時に表示するしくみになっています。（撮影モード時に表示されるヒストグラムは RGB を合わせた値です。）

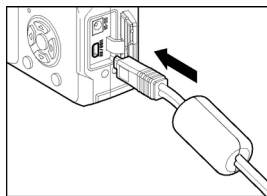
フル画像時のヒストグラムを調べることによって、画像全体の露出を判断することができます。また、拡大表示でのヒストグラムを見ることにより、任意の部分の露出を判断することもできます。

このヒストグラムは、画素の分布が暗い方向にかたより､明るい方向に殆ど存在していません。従って露出不足で全体に暗めの画像であることを示しています。一般に左側にかたよっているヒストグラムは、上記のように露出が不足している場合か、もしくは適正露出でも、暗い部分や暗めの被写体が画面に占める割合が大きく、暗い画素で構成された画像の場合です。

このヒストグラムは、ほぼ均一に画素が分布されており、適正に露出された画像であることを示しています。ただしヒストグラムは、被写体の色や画面に占める割合などによって大きく左右されますので、一概に適正露出であるとは限りません。

このヒストグラムは、画素の分布が明るい方向にかたより、右端に多くの画素が存在しています。従って露出オーバーで全体に明るめ画像であることを示しています。一般に、右側にかたよっているヒストグラムは、上記のように露出がオーバーしている場合か、もしくは適正露出でも明るい部分や明るめの被写体が画面に占める割合が大きく、明るい画素で構成された画像の場合です。

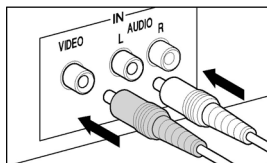
テレビで見る

DP2X では、付属の AV ケーブルを使用してテレビやビデオデッキに接続し、記録した画像をテレビで見たり、ビデオに録画することができます。

ビデオ機器との接続

1

カメラのコネクターカバーを開きます。

2

AV ケーブルをカメラの<**USB / AV**>端子に接続します。

3

AV ケーブルの黄色のジャックをテレビの映像端子に、白のジャックを音声端子に接続します。

4

カメラとビデオ機器の電源を入れます。

警 告 !!

- ビデオ機器との接続には、付属の専用ビデオケーブル以外は使用しないでください。他のケーブルを使用すると、故障の原因になることがあります。

メ モ

- 電池の消耗を防ぐため、別売りの AC アダプターを使用することをお薦めします。
- ビデオ出力のモードは、初期設定では NTSC 方式になっています。PAL 方式の機器に接続する場合は、セットアップメニューでビデオ出力のモードを PAL 方式に変更してお使いください。（**P.111, 112** 参照）

ファイルの消去

カードに記録されたファイルを消去する方法を説明します。

カードに記録されたファイルを、消去メニューで 1 ファイルずつあるいは複数まとめて消去することができます。

ご注意 !!

- この章では、カードに記録された画像、動画、音声を「ファイル」と表しています。
- ジャンプモード表示時は、ファイルの消去ができません。

消去メニューの開き方

画像表示中に 🗑ボタンを押します。

- 取り消す場合は、再度 🗑ボタンを押すか、▼ボタンで「**キャンセル**」を選択して、OKボタンを押します。

消去メニュー

現在のファイル	現在選択されている画像のみ消去します。
マークファイルの消去	カード内に記録されたマークしたファイルをすべて消去します。（ファイルのマークについては **P.92 - 94** をご覧ください。）
全て消去	カードに記録されたすべてのファイル画像を消去します。（ロックされたファイルは消去されません。ファイルのロックについては **P.89 - 91** をご覧ください。）
キャンセル	画像を消去せずに、消去メニューを閉じます

ひとつのファイルを消去する

1

コンタクトシート表示か 1 画像再生で、消去するファイルを十字コントローラーの ◀⬍▶ で選択します。

2

🗑ボタンを押して消去メニューを開きます。

- 🗑ボタンを押すと、最初に「**現在のファイル**」が選択されています。

3

OKボタンを押して消去します。

ご注意 !!

- ファイルがロックされていない場合は、確認なしに消去します。
- ファイルがロックされている場合は、本当に消去して良いか確認メッセージが表示されます。消去してもよい場合は ◀▶ボタンを押して「**はい**」を選んで、OKボタンを押してください。、消去しない場合は「**いいえ**」を選択し、OKボタンを押して消去を中止してください。

複数のファイルを消去する

1

🗑ボタンを押して消去メニューを開きます。

2

⬍ボタンで「**マークファイルの消去**」あるいは「**全て消去**」を選択します。

- ロックされた画像は、消去されずに残ります。ロックされた画像を消去するには、初めにロックを解除してください（**P.89 - 91** 参照）。

3

OKボタンを押すと、確認メッセージが表示されます。

4

すべてのファイルを消去する場合は ◀▶ボタンを押して「**はい**」を選んでOKボタンを押してください。

消去しない場合は「**いいえ**」のままOKボタンを押して消去を中止してください。

ご注意 !!

- 「**マークファイルの消去**」および「**全て消去**」は、カード内のファイル数によって、かなりの時間が掛かることがあります。
- ロックとマークがかけられた画像は、「**マークファイルの消去**」では消去できません。ロックされた画像は初めにロックを解除してください。マークされた画像はロックされない限り消去から保護されません。

再生時のその他の機能

スライドショー、ロック、マーク、回転などの機能を説明します。

ファイルをロックする

ロックは、誤ってファイルを消去することを防ぎます。

ロック設定メニュー

ロック	現在選択されているファイルのロックをします。
ロック解除	現在選択されているファイルのロックを解除します。
ロック	マークされたファイルをすべてロックします。 （画像のマークに関しては **P.92 - 94** をご覧ください。）
ロック解除	マークされたファイルをすべてロック解除します。 （画像のマークに関しては **P.92 - 94** をご覧ください。）
全ロック	すべてのファイルをロックします。
全ロック解除	すべてのファイルのロックを解除します。

ご注意 !!

- ジャンプモード表示時は、ファイルのロックができません。

警 告!!

- ロックされたファイルも、カードの初期化を行うと全てのファイルが消去されます。カードの初期化を行うときは十分注意してください。

メ モ

- ロックされたファイルは、パソコンでは「読み取り専用」と表示されます。

ひとつのファイルのロック

1

コンタクトシート表示や 1 画像再生のとき、十字コントローラーの◀▲▼▶でロックしたいファイルを選択します。

2

MENU ボタンを押して「▶ **再生メニュー**」（**P.26**）を開き、「**ロック**」を選択します。

3

オープンメニュー画面上で ◀▲▼▶ ボタンを押して「**ロック**」を選択し、OK ボタンを押します。

4

MENU ボタンを押してメニューを閉じます。

- 画像の右端に 🔑 アイコンが表示されます

ひとつのファイルのロック解除

ロックを解除するには、ロックされた画像を選択し、手順 **3** で「**ロック解除**」を選択して、OK ボタンを押してください。

複数ファイルのロック

1

MENU ボタンを押して「▶ **再生メニュー**」(**P.26**)を開き、「**ロック**」を選択します。

2

オープンメニュー画面上で ◀▲▼▶ ボタンを押して「**⚑ロック**」か「**全ロック**」を選択し、OK ボタンを押します。

3

確認メッセージが表示されますので、◀▶ボタンを押して「**はい**」を選択し OK ボタンを押して確定します。

4

MENU ボタンを押してメニューを閉じます。

- すべての画像の右端に 🔑アイコンが表示されます。

ロックを中止したい場合は「**いいえ**」を選択し、OK ボタンを押します。

複数ファイルのロック解除

1

上記手順 **2** で「**⚑ロック解除**」か「**全ロック解除**」を選択して、OK ボタンを押します。

2

確認メッセージが表示されますので、◀▶ボタンを押して「**はい**」を選択し OK ボタンを押して確定します。

ロック解除を中止したい場合は「**いいえ**」を選択し、OK ボタンを押します。

ご注意 !!

- 「**⚑ロック**」および「**⚑ロック解除**」は、カード内のファイル数によって、かなりの時間が掛かることがあります。

画像をマークする

画像をマークすると、お気に入りの画像の区分け、スライドショー用の画像の選別、デリートメニューの「マークしたファイルをすべて消去」（**P.88**）で消去する等、画像の選別に便利です。

画像マーク設定メニュー

マーク	現在選択されている画像をマークします。
マーク解除	現在選択されている画像がマークされている場合、マークの解除を行います。
全画像マーク	すべての画像をマークします。（既にマークされている場合は、選択できません。）
全画像マーク解除	すべてのマークされた画像をマーク解除します。

ご注意 !!

- 音声ファイルと動画は、マークすることができません。
- ジャンプモード表示時は、ファイルのマークができません。

メ モ

- カメラでマークした画像は、**SIGMA Photo Pro** でもマーク状態と表示されます。

ひとつの画像のマーク

1

コンタクトシート表示や 1 画像再生のとき、十字コントローラーの◀▶でマークしたい画像を選択します。

2

MENU ボタンを押して「▶ **再生メニュー**」（**P.26**）を開き、「**マーク**」を選択します。

3

オープンメニュー画面上で ▲▼ ボタンを押して「**マーク**」を選択し、OK ボタンを押します。

4

MENU ボタンを押してメニューを閉じます。

- 画像の右端に 🏳 アイコンが表示されます。

ひとつの画像のマーク解除

マークを解除するには、マークされた画像を選択し、手順 **3** で「**マークしない**」を選択して、OK ボタンを押してください。

すべての画像のマーク

1

MENU ボタンを押して「▶ **再生メニュー**」(**P.26**)を開き、「**マーク**」を選択します。

2

オープンメニュー画面上で ◆ ボタンを押して「**全画像マーク**」を選択し、OK ボタンを押します。

3

確認メッセージが表示されますので、◀▶ボタンを押して「**はい**」を選択し、OK ボタンを押して確定します。

4

MENU ボタンを押してメニューを閉じます。

- すべての画像の右端に ⚐ アイコンが表示されます。

マークを中止したい場合は「**いいえ**」を選択し、OK ボタンを押します。

全ての画像のマーク解除

1

上記手順 **2** で「**全画像マーク解除**」を選択して、OK ボタンを押します。

2

確認メッセージが表示されますので、◀▶ボタンを押して「**はい**」を選択し、OK ボタンを押して確定します。

マーク解除を中止したい場合は、「**いいえ**」を選択し、OK ボタンを押します。

ご注意 !!

- 「**全画像マーク**」および「**全画像マーク解除**」は、カード内のファイル数によって、かなりの時間が掛かることがあります。

画像を回転する

画像の表示方向を回転させることができます。向きを変えた画像は、スライドショーのほか、すべての再生モードで変更されます。

メ モ

- カメラで回転させた画像は、**SIGMA Photo Pro** でも同じ向きで表示されます。
- 動画は回転できません。

画像回転設定メニュー

回転 ↺	現在選択されている画像を左回り（反時計方向）に 90 度回転します。
回転 ↻	現在選択されている画像を右回り（時計方向）に 90 度回転します。

1

コンタクトシート表示や 1 画像再生のとき、◀▲▼▶ボタンで回転させる画像を選択します。

2

MENU ボタンを押して「▶ **再生メニュー**」（**P.26**）を開き、「**回転**」を選択します。

3

オープンメニュー画面上で ◀▲▼▶ボタンを押して希望の回転方向を選択します。

4

MENU ボタンを押してメニューを閉じます。

メ モ

- 180 度回転する場合は同じ方向に 2 回、回転させます。
- 元に戻すには、反対方向に回転させます。
- ジャンプモードからは画像回転メニューは選択できません。

露出警告

露出オーバーで、画像が白く飛んでしまっているハイライト部分を、赤色で警告表示することができます。

「▶ **再生メニュー**」（**P.26**）→「**露出警告**」で、「**入**」に設定してください。

- 露出警告は、撮影画像確認画面では表示されません。

露出警告表示を中止したい場合は、「▶ **再生メニュー**」（**P.26**）→「**露出警告**」で、「**切**」に設定してください。

OK ボタンの割り当て

OK ボタンに再生メニューの機能を割り当てることができます。よく使う機能を割り当てて、1 アクションで簡単に行うことができます。

「▶**再生メニュー**」（**P.26**）→「**OK ボタンの割り当て**」より設定します。

OK ボタンに割り当て可能な機能

ロック/ロック解除	ロックしていない画像上で OK ボタンを押すとロックされます。既にロックされている画像上で OK ボタンを押すとロックが解除されます。
マーク/マーク解除	マークしていない画像上で OK ボタンを押すとマークされます。既にマークされている画像上で OK ボタンを押すとマークが解除されます。
露出警告	OK ボタンを押すたびに露出警告表示の ON/OFF が繰り返されます。
回転	OK ボタンを押すたびに、画像を右回り（時計方向）に 90 度回転します。
回転	OK ボタンを押すたびに、画像を左回り（反時計方向）に 90 度回転します。

割り当てた機能を解除するには、「▶ **再生メニュー**」（**P.26**）→「**OK ボタンの割り当て**」で、「**なし**」に設定してください。

画像に音声メモを付ける

撮影済の画像に、10 秒、もしくは 30 秒の音声のメモを付けることができます。撮影時の状況などをメモ代わりに声で記録するなど、非常に便利な機能です。

1

MENU ボタンを押して「▶ **再生メニュー**」（**P.26**）を開き、「**音声メモ**」を選択します。

2

オープンメニュー画面上で ◀▲▼▶ ボタンを押して希望の秒数を選択し、OK ボタンを押します。

3

MENU ボタンを押してメニューを閉じます。

- 画面右側に 🎤 アイコン、録音秒数、操作ガイドアイコンが表示されます。

4

▲ボタンを押すと、録音が開始します。（設定した秒数を経過すると録音が停止します。）

録音中に ▲ボタンを押すと録音を中止します。

録音された音声は、▼ボタンを押すと再生されます。（音声付画像の再生の詳細は、**P.81**「音声付画像を再生する」をご覧ください。）

ご注意 !!

- 音声メモ機能は、録音後も解除されずに繰り返し行われます。すでに音声の付けられた画像の表示中に ▲ボタンを押すと、録音が開始し音声が上書きされます。誤って上書きしないように、ご使用後は前ページ手順 **2** で「**しない**」に設定してください。

メ モ

- 画像に付けられる音声は、WAV 形式で記録されます。画像が記録されるフォルダに、画像と同じファイル番号の別ファイルとして保存されます。例えば、ファイル番号 SDIM0010.JPG に付けられた音声は SDIM0010.WAV となります。

スライドショーを見る

すべての画像あるいは選択した画像のみを自動再生します。

スライドショーメニュー

全画像	すべての画像を再生します。
ロックのみ	ロックされた画像のみ再生します。
マークのみ	マークされた画像のみ再生します。
スライドショーの設定	表示間隔の設定、繰り返しのする/しないを設定します。

ご注意 !!

- 動画、音声は再生されません。（動画は最初の１コマのみ表示されます。）

スライドショーの見方

1

MENU ボタンを押して「▶ **再生メニュー**」（**P.26**）を開き、「**スライドショー**」を選択します。

2

オープンメニュー画面上で ⇕ ボタンを押して「**全画像**」「**ロックのみ**」「**マークのみ**」のいずれかを選択し、OK ボタンを押すとスライドショーが始まります。

スライドショーを途中で停止したい場合は、OK ボタンを押します。

ご注意 !!

- 「**マークのみ**」を選択した場合、カード内のファイル数によっては、スライドショーが開始されるまで、かなりの時間が掛かることがあります。

メ モ

- スライドショーを停止すると、停止時点に表示されている画像が継続表示されます。

スライドショーの設定を変更する

「**スライドショー**」のオープンメニュー画面上で ⇕ ボタンを押して「**スライドショーの設定**」を選択し、OK ボタンを押すと、スライドショーの設定画面に移ります。

スライドショーの設定メニュー

表示間隔	**2 秒＊** **5 秒** **10 秒**	画像が表示される時間を設定します。
繰り返し	**しない＊** **する**	スライドショーを繰り返すか、自動終了するかを設定します。

表示間隔

⇕ ボタンで「**表示間隔**」を選択し、◀▶ ボタンで表示したい秒数を選択します。

繰り返し

⇕ ボタンで「**繰り返し**」を選択し、◀▶ ボタンで「**しない**」か「**する**」を選択します。

動画を撮る･観る

動画を撮影する

DP2X は音声付動画を撮影できます。

- 画像サイズは、QVGA (320×240) サイズ (映像範囲は 320×212 で、上下に黒い帯が記録されています) となります。
- 1 秒間に撮影されるフレーム数 (フレームレート) は、30 フレームです。
- 動画のファイルは、AVI 形式で記録されます。 (記録される動画のファイル名は、例えば、ファイル番号 0023 の場合、SDIM0023.AVI となります。)

撮影残時間カウンター

撮影経過時間カウンター

1

モードダイヤルを 🎥 にします。

2

シャッターボタンを押すと動画の撮影が開始されます。（撮影中は 🎥 アイコンとアクセスランプが点滅します。）

3

撮影を停止するには、再度シャッターボタンを押します。

- オートフォーカスで撮影の場合、シャッターボタンを半押しすると、オートフォーカスが働きピントが固定されます。撮影中はピントは固定されたままとなります。

● マニュアルフォーカスで撮影の場合、シャッターボタンを押すと MF ダイヤルで設定したピント位置で固定されます。撮影中は MF ダイヤルをまわしても、ピントは固定されたままとなります。

● ホワイトバランスの設定を変更できます。 (**P.53 - 55**)

撮影可能時間はおおよそ以下のようになります。

512MB	1GB	2GB	4GB
15 分	30 分	60 分	120 分

ご注意 !!

● 動画撮影中に操作音が記録されることがあります。

● 撮影可能時間は、ご使用のカードにより異なります。また撮影可能時間内でも、ご使用のカードによっては、途中で撮影を終了する場合があります。

● 容量が 2GB 以上のカードを使用した場合でも、1 回の撮影で 2GB のデータ容量に達すると撮影が終了します。

● カードの容量が十分でも、電池の容量がなくなると撮影が終了します。

● 撮影残時間表示は、撮影中にカード容量から再計算されるため、一定に変化しない場合があります。

● 撮影残時間表示は、最大 99 分 59 秒まで表示できます。容量の大きなカードをご使用の場合、しばらく 99:59 からカウンターが動かないことがありますが、撮影残時間が 99 分 59 秒以下になるとカウンターが動きだします。

● 動画モードでのカスタムホワイトバランスの取り込みはできません。静止画モードで取り込まれた基準値が適用されます。

動画を再生する

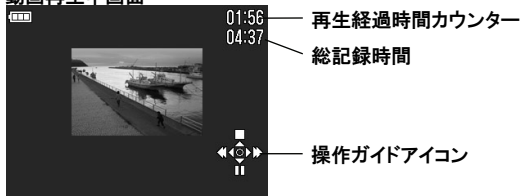
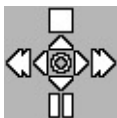
動画を再生するには、次のように操作します。

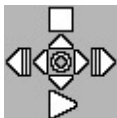
1

再生時に動画が選択されると、最初の 1 フレームが静止画像で表示されます。（画面の上端に 🎥 アイコンと、画面の右端に操作ガイドアイコンが表示されます。）

2

▼ボタンを押すと動画が再生されます。

動画再生中画面

動画再生中は・・・

▲ボタンを押すと停止します。
▼ボタンを押すと一時停止します。
▶ボタンを押し続けている間、早送り再生します。
◀ボタンを押し続けている間、逆早送り再生します。

一時停止中は・・・

▲ボタンを押すと停止します。
▼ボタンを押すと再生します。
▶ボタンを押すとコマ送り再生します。押し続けている間、スロー再生します。
◀ボタンを押すと逆コマ送り再生します。押し続けている間、逆スロー再生します。

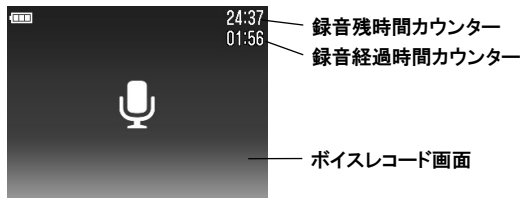
メ モ

- 音声は「**🔧カメラ設定**」（**P.26**）→「**音声設定**」→「**音量**」で設定された音量で再生されますが、音声の再生中にダイレクトでスピーカー音の調整ができます。⌵ボタンを押すと音量が小さくなり、⌃ボタンを音量が大きくなります。
- パソコンに移したファイルを再生する場合は、AVI ファイルの再生が可能なソフトで再生してください。

音声を録る・聴く

録音する（ボイスレコードモード）

DP2X は音声のみを録音する機能があります。

- 音声のファイルは、WAV 形式で記録されます。 (記録される音声のファイル名は、例えば、ファイル番号 0023 の場合、SDIM0023.WAV となります。)

1

モードダイヤルを 🎙 にします。（ボイスレコード画面が表示されます。）

2

シャッターボタンを押すと録音が開始します。（録音中はアクセスランプが点滅します。）

3

録音を停止するには、再度シャッターボタンを押します。

ご注意 !!

- 録音可能時間は、ご使用のカードにより異なります。
- 録音残時間表示は、撮影中にカード容量から再計算されるため、一定に変化しない場合があります。

録音可能時間はおおよそ以下のようになります。

512MB	1GB	2GB	4GB
178 分	356 分	712 分	1424 分

音声を再生する

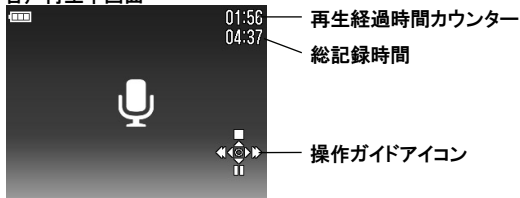
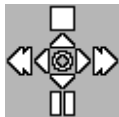
ボイスレコードモードで録音した音声ファイルを再生するには、次のように操作します。

1

再生時に音声が選択されると、ボイスレコード画面が表示されます。（画面の右端には操作ガイドアイコンが表示されます。）

2

▼ボタンを押すと音声が再生されます。

音声再生中画面

音声再生中は・・・

▲ボタンを押すと停止します。
▼ボタンを押すと一時停止します。
▶ボタンを押し続けている間、早送り再生します。
◀ボタンを押し続けている間、逆早送り再生します。

メ モ

- 音声は「**カメラ設定**」（**P.26**）→「**音声設定**」→「**音量**」で設定された音量で再生されますが、音声の再生中にダイレクトでスピーカー音の調整ができます。ボタンを押すと音量が小さくなり、ボタンを音量が大きくなります。
- パソコンに移したファイルを再生する場合は、WAV ファイルの再生が可能なソフトで再生してください。

画像をプリントする

この章では、DP2X で撮影した静止画（JEPG データ）をパソコンを使わずに手軽にプリントする方法を説明します。ピクトブリッジ規格を利用したダイレクトプリントや、お店でのデジタルプリントシステムでは、RAW データ（X3F ファイル）を直接プリントすることはできません。RAW で撮影されたファイル（X3F ファイル）は、パソコンにインストールされた画像ソフト「SIGMA Photo Pro」等で JPEG 形式に変換する必要があります。詳しくは、同梱の SIGMA Photo Pro Disc 内の SIGMA Photo Pro 使用説明書（PDF ファイル）をご覧ください。

ピクトブリッジ対応プリンターでプリントする

DP2X を付属の USB ケーブルでピクトブリッジ対応のプリンターと接続すると、パソコンを使わずに手軽に印刷することができます。

1

モードダイヤルを **SET UP** にし、「**カメラ設定**」（**P.26**）→「**USB モード**」→「**PictBridge**」に設定します。

2

プリンターが印刷できる状態であることを確認し、カメラとプリンターを付属の USB ケーブルで接続します。

3

接続が成功すると、**A.画像/枚数指定メニュー**（次ページ）が表示されます。ボタンで希望する画像/枚数指定方法を選択し、OK ボタンを押します。（カードに記録されいる画像が表示されます。）

A.画像/枚数指定メニュー

選択設定	カード内のプリントしたい画像に対して異なる枚数を指定することができます。プリントしたい画像を◀▶ボタンで表示させて、▲▼ボタンを押して枚数を指定してください。1 回で複数の画像をプリントしたい場合はこの操作を繰り返して指定します。
全ての画像	カードに記録されているプリント可能な静止画データを全て印刷します。▲▼ボタンを押して枚数を指定してください。
選択解除	以前に指定された枚数の指定を全てリセットします。◀▶ボタンを押して「**解除する**」を選択して、OKボタンを押すと、枚数指定が全て解除され、画像/枚数指定メニューに戻ります。
DPOF 設定を利用する （DPOF 設定されていない場合は選択できません）	「▶ **再生設定**」メニューの「**DPOF**」で設定したプリント枚数指定を利用することができます。（**P.109**）

ご注意 !!

- カメラにカードが入っていなかった場合、「**カードがはいっていません**」とメッセージが表示されます。
- カードにプリント可能な静止画データが入っていなかった場合、「**画像がありません**」とメッセージが表示されます。
- 「**プリンターエラー**」のメッセージが表示されたときは、プリンターを印刷できる状態になるように対処してください。
- RAW データ（X3F ファイル）は、プリントすることができません。
- プリンターによっては DPOF 設定を利用できない場合があります。その場合は「**DPOF 設定を利用する**」は選択できません。

4

印刷する画像、枚数の選択が終わったら、MENU ボタンを押します。**B. プリント設定メニュー**が表示されます。⇕ボタンで各項目を選択し、オープンメニュー上で各項目の詳細を設定します。

B.プリント設定メニュー

用紙サイズ	**プリンターの設定に合わせる** もしくは **カード** / **L** / **2L** / **ハガキ** / **KG** / **A4** から選択できます。
日付印刷	**プリンターの設定に合わせる** もしくは **日付を入れない** / **日付を入れる** から選択できます。
レイアウト	**プリンターの設定に合わせる** もしくは **ふちなし印刷** / **ふちあり印刷** / **2 枚**（2 面印刷）/ **4 枚**（4 面印刷）/ **インデックス**から選択できます。

5

各項目を設定した後、MENU ボタンを押して画像の表示に戻します。その後、**QS** ボタンを押すと、プリントが開始されます。

●プリントが終了すると、画像/枚数指定メニューに戻ります。

ご注意 !!

- 上記プリント設定項目に、プリンターが対応していない場合や、指定サイズの用紙がセットされていない場合、正しく印刷されない場合があります。
- プリントが終了するまで、USB ケーブルを抜かないでください。
- 途中でプリントを中止したい場合は、プリンター側で中止を行ってください。

DPOF プリント

カードをデジタルプリント取り扱い店に持ち込んでプリントを依頼するとき､DPOF プリントメニューでプリントしたい画像の選択や枚数をあらかじめカメラで指定しておくことができます。指定情報は DPOF 対応プリンターでプリントする際にも利用できます。

ご注意 !!

- RAW データ（X3F ファイル）は、DPOF プリントの設定ができません。

1

静止画の再生中に MENU ボタンを押して「▶ **再生メニュー**」(**P.26**)メニューを開き、「**DPOF**」を選択します。

2

オープンメニュー画面上で ◀▲▼▶ ボタンを押して希望の指定方法を選択し、OK ボタンを押します。

DPOF メニュー

選択指定	▲▼ ボタンを押して枚数を指定します。1 回で複数の画像を指定したい場合は、プリントしたい画像を ◀▶ ボタンで表示させて ▲▼ ボタンを押して枚数を指定します。この操作を繰り返して指定します。最後に OK ボタンを押して確定します。
全ての画像	カードに記録されているプリント可能な静止画データを一括指定します。▲▼ ボタンを押して枚数を指定し、OK ボタンを押して確定します。
選択解除	以前に指定された枚数の指定を全てリセットします。▲▼ ボタンを押して「**はい**」を選択して、OK ボタンを押すと、枚数指定が全て解除されます。

メ モ

- 画面下に指定したトータル枚数（各画像の指定枚数の合計）が表示されます。

参考資料

カメラのスペックなどを説明します。

別売アクセサリー

エレクトロニックフラッシュ EF-140 DG SA-STTL

最大ガイドナンバー14（ISO100・m）の小型オートフラッシュです。詳しくは**P.69** をご覧ください

ビューファインダー VF-21

非常に見え味の良いアルバダ式逆ガリレオファインダーです。カメラのホットシューに取り付けて使用します。液晶モニタを使わずにファインダーを覗いて構図を決める、昔ながらの撮影スタイルで写真を撮ることができます。外光の影響で液晶モニタが見づらい場合などにも確実なフレーミングができます。

フードアダプター HA-21

レンズフード本体と、カメラとの取り付け用フードアダプターのセットです。斜めからの不要な光線をカットし、フレアやゴーストを軽減する効果があります。フードアダプター先端にはフィルターネジが切られており、市販の 46mm 径のフィルターやレンズキャップを取り付けることができます。

AC アダプター SAC-3

家庭用電源で DP2X を使用するための専用 AC アダプターです。屋内で大量に撮影する場合や、画像の転送時等にご使用ください。（**P.23**）

お手入れについて

■ ボディやレンズのお手入れにシンナーやベンジンなどの有機溶剤は表面の仕上げをいためますので絶対に使用しないでください。ボディやレンズの鏡筒部は柔らかい清潔な布で軽く拭いてください。レンズ面についたほこり等は市販のブロワーで軽く吹き飛ばす程度にし、指紋などがついてしまった場合は市販のレンズクリーナーを使用して慎重に拭きとってください。

■ 注油の必要はありません。注油は逆効果の恐れがありますので絶対にしないでください。

■ 液晶モニタにほこりやゴミ等が付着した場合は、市販のブロワーで吹き飛ばしてください。汚れがひどいときは柔らかい清潔な布で軽く拭いてください。

基本用語の解説

AE
Auto Exposure の略で、カメラに内蔵された露出計の値をもとに、自動的に最適な露出（シャッター速度と絞り値の組み合わせ）が決定されます。

AE ロック
AE モードのまま露出を固定する方法です。例えば被写体を画面の中央から外れた構図にしたい場合、一旦被写体を中央に置いて測光値を固定すれば、構図を変えてもバックの明るさに影響されません。（このカメラでは AE ロックボタンを使用します。）

AF
Auto Focus の略で、カメラに内蔵されたセンサーによって、自動的にピントを合わせる機能です。

AF ロック
AF モードのままピントを固定する方法です。例えば被写体を画面の中央から外れた構図にしたい場合、一旦被写体を中央に置いてピントを固定すれば、構図を変えてピントがずれません。（このカメラではシャッターボタンの半押しを利用します。もしくは AEL ボタンを設定変更することにより、AEL ボタンで AF ロックすることもできます。）

CMOS
Complementary Metal Oxide Semiconductor（相補性金属酸化膜半導体）の略で、画素数分のフォトダイオード、増幅装置、ワイヤーからなる撮像素子です。CMOS センサーのメリットは、1 画素ごとに電気信号を増幅し取り出せる構造になっており、応答速度に優れ、消費電力が少ないことがあげられます。

EV
Exposer Value の略で露光量を表す単位で、被写体の明るさとフィルムの感度によって決まります。被写体が明るければ数値は大きくなり、暗ければ数値は小さくなります。フィルムに与えられる光量が２倍になると EV 値は＋１、半分になると EV 値は－１変化します。デジタルカメラでも、銀塩写真に準じて EV 値が使われます。

ISO 感度
ISO（国際標準機構）感度として表記されている、フィルムの光に対する感度の強さを示す数値です。ISO 感度は数値が大きくなるほど光に対する感度が強くなります。デジタルカメラでも、銀塩写真に準じて ISO 感度が使われます。

JPEG
Joint Photographic Experts Group の略です。カラー画像を圧縮して保存するためのファイル形式です。圧縮率が高いほどファイルサイズは小さくなりますが、画像を復元したときの画像は劣化します。

NTSC (National Television Standards Committee)
アメリカや日本などが採用している地上波アナログカラーテレビ放送の映像信号方式。アナログ・コンポジット方式とも呼ばれています。仕様を作成したアメリカの標準化委員会 (National Television Standards Committee) の略称がそのまま方式名になっています。水平方向の走査線数が 525 本で 1 秒間に 30 フレームで構成されています。

PAL (Phase Alternation by Line)
旧西ドイツで開発され、フランス以外の西ヨーロッパ諸国をはじめ、中国などのアジア諸国やアフリカなどで採用されている地上波アナログカラーテレビ放送の映像信号方式。水平方向の走査線数が625本で毎秒25フレームで構成されています。

RAW
撮像素子からの情報を特別な演算処理を加えず、パソコン上での画像処理を前提としたデータ形式です。画像の劣化しない方式で圧縮されたデータを専用ソフトで解凍、画像処理ができますので、高画質を保ったまま補正を加えることができます。

色温度
光源から出る光の色合いを、温度を表わすケルビン（K）という単位を使って数字で表わしたもの。基準となる太陽光は 5600 K 付近となり、色温度が低いと赤味が強い光となり、高いと青味が強い光となります。ちなみにタングステン光は 3200 K 程度、パソコンのディスプレイは 9300 K 程度に設定されています。

オートパワーオフ機能
ムダな電力消費を防ぐため、一定の時間カメラを操作せずに放置すると、自動的に電源を OFF にする機能です。

絞り値
撮像素子に当たる光の量をレンズ内の絞り羽根を開けたり閉じたりして調整しますが、この開口部の大きさを表した数字（焦点距離÷開口径）を絞り値と言います。数値が小さいほど明るく、大きくなるほど暗くなります。

シャッター速度
撮像素子に当たる光の量をカメラのシャッターの開いている時間で調整しますが、このシャッターの開いている時間の長さをシャッター速度と言います。

ヒストグラム (histogram)
一般的には分布図のことですが、画像用語としては画像の明るさの分布を表わしたものを指します。水平軸は明るさのレベルを表し、垂直軸が各明るさでの画素の登場回数を表わしています。DP2X、およびSIGMA Photo Proのヒストグラム表示は、R（赤）G（緑）B（青）それぞれのレベルを同時に表示するしくみになっています。

ホワイトバランス
人間の目は照明の種類が変わっても、白いものは白く見えるように自動的に調整されます。デジタルカメラは、白いものが白く写るように照明光の色に合わせた調整が必要です。この調整をホワイトバランスと言います。自動的にホワイトバランスを調整する機能をオートホワイトバランスと言います。

露出
撮影するために撮像素子に当てる光の量を露出といいます。また、撮像素子の感度に合わせて適切な光量を当てることを適正露出と言います。露出は、「絞り値」と「シャッター速度」の組み合わせで調整します。

ファイル番号の設定

記録されたデータには、自動的に 0001 から 9999 までのファイル番号が付けられます。データを再生しているときは、液晶モニタの右上にファイル番号が表示されます（**P.77, 82** 参照）。また、ファイル番号はデータのファイル名にも表示されます。ファイル名は、4 ケタのファイル番号と拡張子が SDIM の後に続きます。例えば、画像番号 0023 は RAW データの場合、SDIM0023.X3F、JPEG データの場合、SDIM0023.JPG と記録されます。DP2X で撮影された画像ファイルは、すべてカードの DCIM フォルダ内の ###SIGMA フォルダに記録されます。

- 「**カメラ設定**」（**P.26**）→「**カラースペース**」で、「**Adobe RGB**」が選択されている場合、ファイル名の「SDIM」は「_SDI」となります。
- ファイル番号は連番か、空のカードを入れるたびにリセットされるかのいずれかを選択できます。設定は「**カメラ設定**」（**P.26**）→「**ファイル番号**」より行います。

ファイル番号設定メニュー

通し番号*	連続でファイル番号が付けられます。空のカードを入れたとき、最初のファイルに付けられるファイル番号は、以前の撮影で付けられた最後の番号より 1 つ大きい番号が付けられます。（DP2X で撮影した画像が記録されているカードを入れた場合、以前に付けられた最後の番号よりもカード内のファイルの番号が大きければ、その番号の続きが付けられます。）
オートリセット	空のカードを入れたり、使用中のカード内の画像をすべて消去するたびに、ファイル番号が初期の番号 0001 にリセットされます。（DP2X で撮影した画像が記録されているカードを入れた場合、番号はリセットされずに次の番号が付けられます。）

ご注意 !!

- フォルダ番号ーファイル番号が ”999-9999”に達した場合、カードに空き容量があっても、「**容量がいっぱいです。**」とメッセージが表示され、それ以上撮影ができなくなります。一旦再生モードに切り換え、ファイル番号を確認してください。”999-9999”のファイルが存在する場合には、以下の対処を行ってください。

  1. カード内のすべてのファイルをパソコン等に保存します。
  2. カードを初期化します。
  3. 「**ファイル番号**」の設定が 「**通し番号**」になっている場合は、一旦「**オートリセット**」に設定します。
  4. これで撮影を続行することができます。通常、ファイル番号を「**通し番号**」に設定している方は、再度「**通し番号**」に設定してください。

- 予備のカードに入れ替えて撮影を続行したい場合は、手順 3 から同様の設定を行ってください。

LCD スリープとオートパワーオフ

DP2X は電池の消耗を抑えるために、ある一定の時間操作しない状態が続くと、自動的に液晶モニタを OFF にする「**LCD スリープ**」と、電源を OFF にする「**オートパワーオフ**」の機能を備えています。

LCD スリープとは・・・
ある一定の時間操作しない状態が続いたとき、自動的に液晶モニタの表示を OFF にします。LCD スリープ中は、シャッターボタンの半押しか、各ボタンを操作すると、液晶モニタの表示が ON になります。

オートパワーオフとは・・・
ある一定の時間操作しない状態が続いたとき、自動的にカメラの電源を完全に OFF にします。再度撮影や再生をするには、カメラの電源を ON にする必要があります。

- 設定の変更は「**カメラ設定**」(**P.26**) → 「**LCD スリープ**」、および「**オートパワーオフ**」より行います。

LCD スリープ

切
30 秒 eco
1 分 *
2 分
5 分

オートパワーオフ

しない
10 秒
30 秒
1 分
2 分 *
5 分

- eco マークは、電池の消耗を抑える推奨の設定であることを表しています。

メ モ

- 「**LCD スリープ**」の「**切**」は自動的に消灯しなくなる設定です。
- 「**オートパワーオフ**」の「**しない**」は自動的に電源が切れなくなる設定です。

ご注意 !!

- 「**LCD スリープ**」の時間よりも、「**オートパワーオフ**」の時間を短く設定した場合、「**オートパワーオフ**」の時間設定が優先されます。例えばを「**LCD スリープ**」を「**5分**」、「**オートパワーオフ**」を「**1分**」に設定した場合、「**LCD スリープ**」の時間設定は無視され、1 分で電源が OFF になります。

パワーセーブモード

「**LCD スリープ**」で設定された時間になると、液晶モニタを OFF にすると同時に、撮像素子などに供給する電源もカットし、より電池の消耗を抑えることができます。

- 「**カメラ設定**」（**P.26**）→「**パワーセーブモード**」より、「**入 eco**」に設定してください。

ご注意 !!

- 「**パワーセーブモード**」が「**入 eco**」に設定されている場合、液晶モニタの表示が ON になるまで 2 秒程度時間がかかる場合があります。

困ったときは

カメラの調子が悪かったり写真がうまく写らなかった場合､故障と思われる前に次の点を確認してください。

液晶モニタになんの表示も出ない。

電池が消耗している。

▶新しい電池と交換してください。（**P.19~22**）

電池の向きが正しくない。

▶正しい向きに入れ直してください。（**P.20**）

液晶モニタが OFF になっている

▶I□I ボタンを押して液晶モニタを表示させてください。（**P.35**）

LCD スリープ状態になっている。

▶シャッターボタンを半押しする、もしくはいずれかのボタンを押してください。（**P.114**）

シャッターが切れない。

データ処理中（ビジー状態）になっている。

▶処理が終わるまでお待ちください。

カードの使用容量がいっぱいになっている。

▶新しいカードを入れるか、いらない画像を消去して容量を空けてください。（**P.86 - 88**）

オートフォーカスが動かない。

フォーカスモードが MF になっている。

▶フォーカスモードボタンを押してモードを切り換えてください。（**P.48**）

電源が勝手に切れる。

オートパワーオフが働いている。

▶バッテリーの消耗を抑えるためにオートパワーオフ機能が働いています。不都合がある場合は、セットアップメニューでオートパワーオフの設定を「**しない**」に設定してください。（**P.114**）

撮影・記録ができない。

カードの使用容量がいっぱいになっている。

▶新しいカードを入れるか、いらない画像を消去して容量を空けてください。（**P.86 - 88**）

電池が消耗している。

▶新しい電池と交換してください。（**P.19~22**）

カードにロックがかかっている。

▶カードのロックを解除してください。（**P.10**）

カードのデータが壊れている。

▶カードに必要なデータが残っている場合にはパソコンにバックアップをとった後、カメラでカードを初期化してください。（**P.39**）

液晶モニタの表示・画像が不鮮明になる。

ゴミや汚れが付いている。

▶ブロワーで吹き飛ばしたり、柔らかい清潔な布で拭き取ってください。（**P.110**）

液晶モニタが劣化している。

▶お買い上げの販売店もしくは弊社営業所にご相談ください。

画像がボケて写っている。

ピントが合わないままシャッターを切っている

►シャッターを半押しして、フォーカスフレームが緑色になったのを確認してシャッターを切ってください。（**P.48**）

フォーカスモードが MF になっている。

►フォーカスモードボタンを押してモードを切り換えてください。（**P.48 - 50**）

手ブレをおこしている。

►フラッシュ撮影をするか、三脚等を利用してカメラを固定して撮影してください。（**P.46, 47, 69**）

画像を消去できない。

画像にロックがかかっている。

►ロックを解除してください。（**P.89 - 91**）

撮影年月日・時間が正しく表示されない。

日付・時間が正しく設定されていない。

►日付・時間を正しく設定してください。（**P.25**）

テレビに画像が出ない。

AV ケーブルがしっかりと差し込まれていない。

►AV ケーブルを根元までしっかりと差し込んでください。

映像端子（黄色）と音声端子（白）が正しく接続されていない。

►映像端子（黄色）と音声端子（白）が正しく接続されているかチェックしてください。（**P.85**）

音声が再生されない

音量がゼロになっている。

►動画、音声の再生中は ボタンを押して音量をあげてください。（**P.81, 103, 105**）

►「**カメラ設定**」（**P.26**）→「**音声設定**」→「**音量**」を調整してください。（**P.32**）

主な仕様

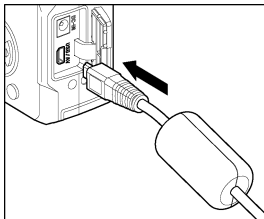
項目	仕様	
撮像素子	FOVEON　X3® (CMOS)	
撮像素子サイズ	20.7×13.8mm	
有効画素数	約 1406 万画素 (2652×1768×3 層)	
アスペクト比	3 : 2	
レンズ	24.2mm（35mm カメラ換算：41mm 相当の画角）	
レンズ F 値	F2.8 ~ F14	
レンズ構成	6 群 7 枚	
撮影範囲	28cm ~ ∞、 100cm ~ ∞ (LIMIT モード)	
記録媒体	SD / SDHC メモリーカード、マルチメディアカード	
記録フォーマット	Exif 2.21 準拠、DCF 2.0 準拠、DPOF 準拠	
ファイルフォーマット	静止画	X3F (ロスレス圧縮 RAW)(12-bit) JPEG (Fine、Nomal、Basic)
	動画	AVI
	音声	WAV
画像サイズ (記録画素数)	静止画	High : 2640×1760 Wide : 2640×1485 Medium : 1872×1248 Low : 1312×880
	動画	QVGA : 320×240 (映像範囲 320×212)
ホワイトバランス	8 種 (オート、晴れ、日陰、くもり、白熱電球、蛍光灯、フラッシュ、カスタム)	
ISO 感度	AUTO (ISO100~ISO200) (フラッシュ撮影時 ISO100~ISO400)、ISO50、100、200、400、800、※1600、※3200 (※RAW 設定時のみ)	
オートフォーカス	コントラスト検出方式	
測距点	9 点 (選択可)	
フォーカスロック	シャッター半押しによる（メニュー設定により AE ロックボタンによる AF ロック可）	
マニュアルフォーカス	ダイヤル式	
測光方式	評価測光、中央部重点平均測光、スポット測光	
露出制御方式	(P) プログラム AE、(A) 絞り優先 AE、 (S) シャッター優先 AE、 (M) マニュアル	
露出補正	±3EV (1/3 ステップ)	
AE ロック	AE ロックボタンによる	
オートブラケット	±3EV (1/3 ステップ、適正→アンダー→オーバー)(順序変更可)	
シャッター速度	1/2000 秒 ~ 15 秒	
内蔵フラッシュ	手動ポップアップ式、ガイドナンバー: 6 (ISO100 / m)	
フラッシュ到達距離	約 28cm ~ 3m (ISO200 時)、約 28cm ~ 4.3m (ISO オート時)	

フラッシュモード	強制発光、赤目軽減発光、スローシンクロ
外部フラッシュ	ホットシュー (X 接点、専用フラッシュ連動接点付)
ドライブモード	1 コマ撮影、連続撮影(4 コマ連写/JPEG)(3 コマ連写/RAW) セルフタイマー (2 秒 / 10 秒)
液晶モニタ	約 23 万画素 2.5 型 TFT カラー液晶
表示言語	9 言語 (英語 / 日本語 / ドイツ語 / 中国語(簡体字) / フランス語 / スペイン語 / イタリア語 / 韓国語 / ロシア語)
インターフェース	USB 端子 (2.0)、 ビデオ出力 (NTSC / PAL)、オーディオ出力 (モノラル)
電源	専用リチウム充電池 (Li-ion Battery BP-31)、 AC アダプター SAC-3 (別売)
撮影可能枚数	約 250 枚（Li-ion Battery BP-31 使用、25℃時）
大きさ	113.3mm (幅) × 59.5mm (高さ) ×56.06mm (奥行)
質量	260g (電池、カード除く)

パソコンとの接続について

カードに記録されたファイルは、DP2X をパソコンに接続して転送することができます。画像データの転送速度はパソコンの性能やオペレーションシステムにより変わります。
パソコンとの接続方法の詳細は、同梱の **SIGMA Photo Pro Disc** 内の **SIGMA Photo Pro** 使用説明書（PDF ファイル）をご覧ください。

接続に関するご注意

- 「**カメラ設定**」メニューの「**USB モード**」が「**ストレージ**」に設定されていることを確認し、付属の USB ケーブルでカメラとパソコンを接続してください。
- USB 接続中は、カメラのシャッターボタンと液晶モニタは使用できません。
- USB 接続中は、カメラのオートパワーオフの機能が働きません。

警 告 !!

- パソコンとの接続には、付属の専用ケーブル以外は使用しないでください。他のケーブルを使用すると、故障の原因になることがあります。

電話でのお問い合わせ
シグマ カスタマーサービス部
フリーコール : **0120-9977-88**
（携帯電話・PHS をご利用の方は 044-989-7436 にご連絡ください）
受付時間 : 月～金 9:00-18:00
（土日祝日および年末年始弊社休業日はお休みさせていただきます）

株式会社シグマ
本　　社
〒215-8530 神奈川県川崎市麻生区栗木 2 丁目 4 番 16 号
☎(044) 989-7430 (代)　FAX: (044) 989-7451

大阪営業所　〒541-0059 大阪市中央区博労町 1-7-2　堺筋トラストビル 8F　☎06(6271)1548
工　　場　〒969-3395 福島県耶麻郡磐梯町大字大谷字日知坂 6594　☎0242(73)2771(代)

弊社事業所の営業時間 : 月～金 9:00-17:00
（土日祝日および年末年始弊社休業日はお休みさせていただきます）

インターネットホームページアドレス　**http://www.sigma-photo.co.jp**

本製品は、使用説明書の内容以外に、以下の機能が追加となっております。本書にて追加機能の説明を補足しています。使用説明書と併せてご覧ください。

CP キャプチャー優先モード

通常の１コマ撮影では、撮影後すぐに画像処理がスタートするため、次の撮影が可能になるまで多少の時間が掛かかります。キャプチャー優先モードは、バッファーがいっぱいになるまでレリーズ操作を優先する、シャッターチャンスに強い１コマ撮影モードです。

設定方法：

クイックセットメニュー（**P.34**）のドライブモードから CP を選択、もしくは「**撮影設定**」（**P.26**）→「**ドライブモード**」→「**CP キャプチャー優先**」を選択します。

キャプチャー優先モードに設定すると、画面右下に、CP タイマーと撮影可能枚数が表示されます。撮影すると CP タイマーがカウントダウン表示されます。

キャプチャー優先モードでは、バッファーがいっぱいになった時点で画像処理が始まりますが、一定の時間が経過すると自動的に画像処理が始まります。「**CP タイマー設定**」 で画像処理が始まる時間を変更することができます。

「**撮影設定**」（**P.26**）→「**CP タイマー設定**」より設定します。

次の時間から選択できます。

5 秒、**10 秒**（初期設定）、**30 秒**、**60 秒**

CP タイマー作動中に以下の操作を行うとタイマーがリセットされ、再度設定時間からカウントダウンされます。

シャッターボタンを半押しする **MENU** ボタンを押す QS ボタンを押す	ボタンを押す MF 時に拡大表示をする 他の露出モードに変更する

CP タイマー作動中は、再生ボタンを押すことで、任意のタイミングで画像処理を開始することができます。

ご注意!!

- ドライブモードをキャプチャー優先に設定すると、下記の機能が使用できなくなります。

インターバルタイマー 音声付静止画	マイセッティングの保存 マイセッティングの呼出	カスタムホワイトバランスの取り込み

- オートブラケット設定を行うと、強制的に一コマ撮影に変更されます。
- CP タイマー作動中は、LCD オフとオートパワーオフが働きません。
- CP タイマー作動中は、ドライブモードの変更ができません。画像処理が完了してからドライブモードを変更して下さい。
- CP タイマー作動中は、再生モードに変更できません。一度 ▶ ボタンを押して画像処理を完了させてから、再度 ▶ ボタンを押して再生モードに移って下さい。
- バッテリーの容量が残りわずかな場合や、カードの空き容量がなくなった場合、タイマーの設定に関らず画像処理が開始されます。